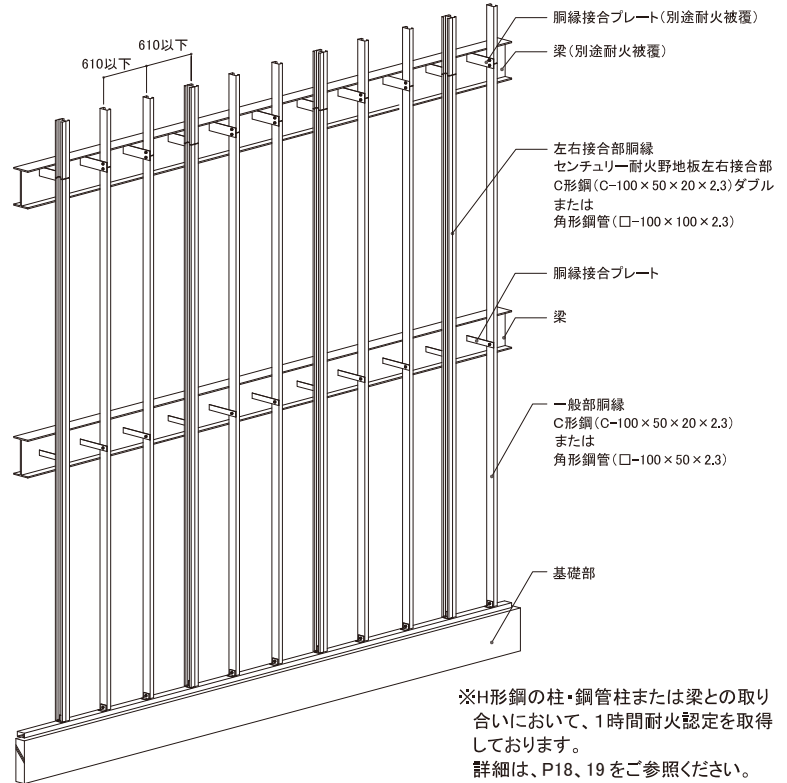


## 鉄骨下地組基本構成図

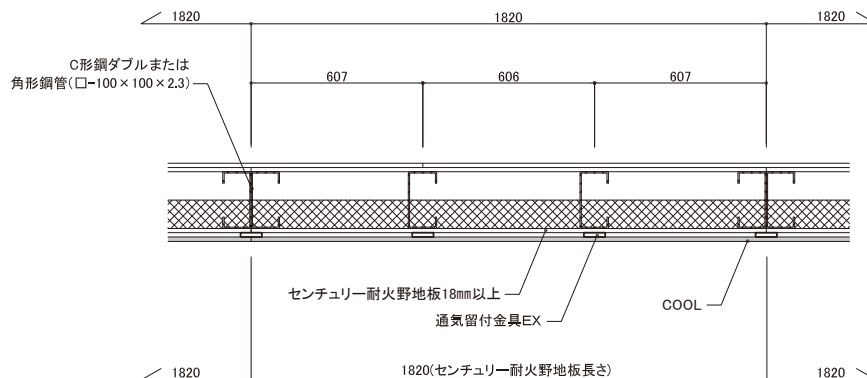
- 鉄骨胴縁はC形鋼(C-100×50×20×2.3以上)または角形鋼管(□-100×50×2.3以上)で縦胴縁とし、最大610mm以下の間隔で組んでください。
- COOLは風荷重を受けますので、下地材は設計計算により最大610mm以下の所定の間隔になるように設定してください。
- センチュリー耐火野地板の左右接合部はC形鋼をダブルで組むまたは角形鋼管(□-100×100×2.3以上)としてください。
- 鉄骨躯体梁にあらかじめ胴縁接合プレートを留め付けておいたものに、不陸を調整しながら鉄骨胴縁を留め付けてください。
- 下地躯体の梁および胴縁接合プレートは別途耐火被覆してください。
- 階高さなど、鉄骨胴縁の上下留付間隔が長くたわみが大きくなる場合は、胴縁間隔を狭めたり、耐風梁を入れるなど鉄骨胴縁のたわみ変形を1/120以下に抑えるよう設計してください。



※H形鋼の柱・鋼管柱または梁との取り付けにおいて、1時間耐火認定を取得しております。  
詳細は、P18、19をご参照ください。

## 横張り四方合いじゃくり品

- 屋外側はセンチュリー耐火野地板働き長さ(1820mm)ごとにC形鋼胴縁がダブルまたは角形鋼管(□-100×100×2.3以上)が必要になります。一般部およびCOOLの左右接合部は610mm以下の間隔にC形鋼胴縁または角形鋼管胴縁を取り付けてください。



※1時間耐火構造の場合、室内側強化せっこうボードの上張り、下張りの強化せっこうボードと目地が重ならないように千鳥に張ります。

## ■面材の施工

### ●屋外側被覆材の施工

耐火時間	種類	規格	厚さ	留め付け
1時間・30分 共通	センチュリー耐火野地板	JIS A 5404	18mm以上	固定用材料：リーマドリルビス φ4mm×37mm以上 留付間隔：鉛直方向303mm以下、水平方向610mm以下

### ●屋内側被覆材の施工

#### 下張り

耐火時間	種類	規格	厚さ	留め付け
1時間	強化せっこうボード	JIS A 6901	12.5mm以上	固定用材料：ドリリングタッピンビス φ3.5mm×25mm以上 留付間隔：周辺部200mm以下、中間部300mm以下

#### 上張り

耐火時間	種類	規格	厚さ	留め付け
1時間	強化せっこうボード	JIS A 6901	12.5mm以上	工業用ステーブルおよび接着剤併用 ①工業用ステーブル 材 質：ステンレス鋼線 (JIS G 4309) 又は鉄線 (JIS G 3532) 寸 法：内幅4mm以上、足長22mm以上 留付間隔：2本留め300mm以下 ②接着剤 材 質：酢酸ビニル系樹脂 使用量：200g/m <sup>2</sup> 以下
30分	せっこうボード	JIS A 6901	12.5mm以上	固定用材料：ドリリングタッピンビス φ3.5mm×25mm以上 留付間隔：周辺部200mm以下、一般部300mm以下

1時間耐火構造では、下張りの強化せっこうボードをドリリングタッピンビスで胴縁に留め付け、上張りの強化せっこうボードは工業用ステーブルと接着剤で下張りの強化せっこうボードと目地どうしが重ならないように干鳥に張り付けます。  
30分耐火構造では、せっこうボードをドリリングタッピンビスで胴縁に留め付けます。

## ■断熱材の施工

### ●材質・寸法

部位	種類	規格	サイズ
1時間・30分 共通	なし		断熱材なし
	グラスウール	JIS A 9504・JIS A 9521	50mm厚以上、密度10kg/m <sup>3</sup> 以上
	ロックウール	JIS A 9504・JIS A 9521	50mm厚以上、密度20kg/m <sup>3</sup> 以上

胴縁間にグラスウールまたはロックウールを充填します。センチュリー・モエン外壁耐火構造では断熱材なしにすることもできます。

## ■内装下地材

### ●材質・寸法



部位	種類	規格	サイズ
1時間・30分 共通	なし	—	下地なし
	建築用鋼製下地材	JIS A 6517	スタッド：WS-50 (50×45×0.8) 以上
			ランナー：WR-50 (52×40×0.8) 以上
			振れ止め：WB-19 (19×10×1.2) 以上

センチュリー・モエン外壁耐火構造では内装下地材に建築用鋼製下地材を使用することができます。施工方法はJASS 26内装工事に準拠してください。

## ■外壁材の施工

### ●設計・施工

外壁材の施工は、屋外側被覆材のセンチュリー耐火野地板の上に、防水紙をたるみ、しわがないように工業用ステーブルで留め付けてから、COOLを目地通りよく、不陸、目違いがないように横張り用通気留付金具EXを耐火構造用通気金具留付リーマドリルビスで留め付けます。

品名	品番	サイズ	形状
横張り用通気留付金具EX	JE825	—	
通気留付金具EX 左右接合部用	JEJ835	—	
通気留付金具EX ウマ張り用セット	JEUS830	—	
耐火構造用通気金具留付リーマドリルビス	JK1460	φ4.2mm×45mm	
耐火構造用ステンレスリーマドリルネジ	JK1450	φ5mm×70mm	

### ●施工手順

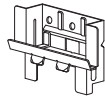
鉄骨躯体工事完了・確認の後、下記の手順で施工してください。

耐火時間	施工手順												
1時間	鉄骨胴縁工事	⇒	センチュリー耐火野地板張り (胴縁の屋外側)	⇒	水切等取り付け	⇒	防水紙張り	⇒	外壁材施工	⇒	断熱材充てん (胴縁の間)※	⇒	強化せっこうボード2重張り (胴縁の屋内側)
30分	鉄骨胴縁工事	⇒	センチュリー耐火野地板張り (胴縁の屋外側)	⇒	水切等取り付け	⇒	防水紙張り	⇒	外壁材施工	⇒	断熱材充てん (胴縁の間)※	⇒	せっこうボード張り (胴縁の屋内側)

※センチュリー・モエン外壁耐火構造では断熱材なしにすることもできます。

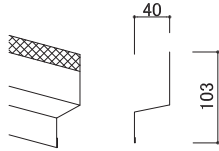
### ●禁止事項

最新版「設計施工資料集」に記載の「設計施工上の主な禁止事項」をお守りください。



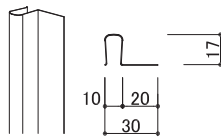
## 主要部材一覧表

### ■土台部

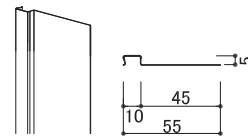


通気土台水切40  
(FTD49\*\*)  
※または通気土台水切50(FTD59\*\*)  
\*\*は色番号  
L=3030mm

### ■接合部

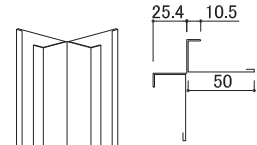


片ハットジョイナー17  
(FHK1017R)



片ハットジョイナー05  
(FHK1105)

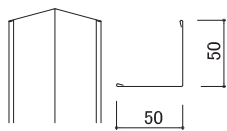
### ■出隅部



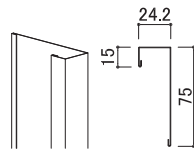
出隅16  
(FD71\*\*)

※メモリア・イルミオには本体と同質の出隅柱の設定もございます。  
(一部のメモリアは除く)

### ■入隅部

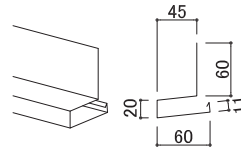


入隅50  
(JR1900)



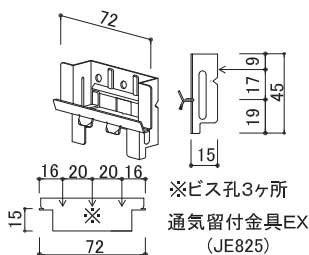
見切縁22  
(FM22\*\*)  
\*\*は色番号

### ■オーバーハング部

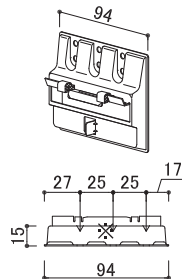


オーバーハング水切 鋼板製  
(JOH72\*\*)  
\*\*は色番号

### ■留め付け部 (矢印がビス孔の位置です)

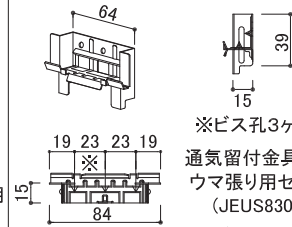


※ビス孔3ヶ所  
通気留付金具EX  
(JE825)



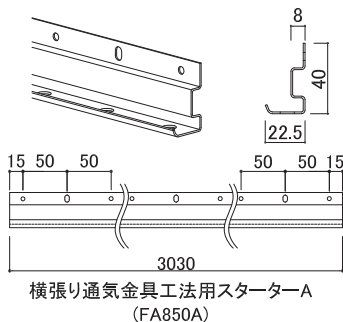
※ビス孔6ヶ所  
通気留付金具EX左右接合部用  
(JEJ835)

### [ウマ張り施工時に使用]

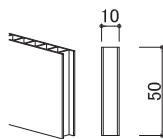


※ビス孔3ヶ所  
通気留付金具EX  
ウマ張り用セット  
(JEUS830)  
ウマ張り金具(本図)10個、  
JEJ835 10個、  
EPDMシール1シート/箱

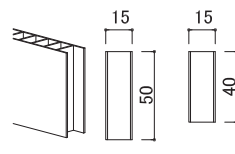
※メモリア・イルミオにおいて本体と同質の同質出隅で納める場合には、通気留付金具EX出隅用(JE825C)を使用します。



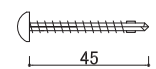
横張り通気金具工法用スターターA  
(FA850A)



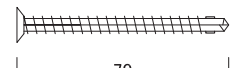
スペーサー10  
(FS1010)  
長さ:1,200mm



スペーサー15  
(FS1015)  
長さ:1,200mm  
スペーサー15(ピースタイプ)  
(FSP1015)  
サイズ:40×40×15mm



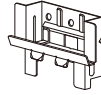
耐火構造用通気金具留付  
リーマドリルビス(JK1460)



耐火構造用  
ステンスリーマドリルネジ  
(JK1450)

### ■その他

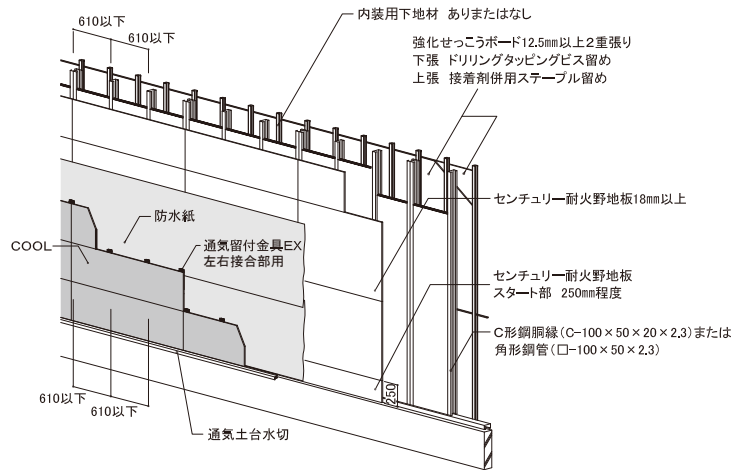
- モエン透湿防水シート I (JF2000A)
- モエン透湿防水シートⅢ(JF4100A,JF4150A,JF4125A)
- モエン透湿防水シートⅣ(JF6150A)
- モエン遮熱シート I (JF7150A)
- モエン遮熱シートⅡ (JF7250A)
- 両面防水テープ (JF1511,JF1514,JF1515,JF1517,JF1518)



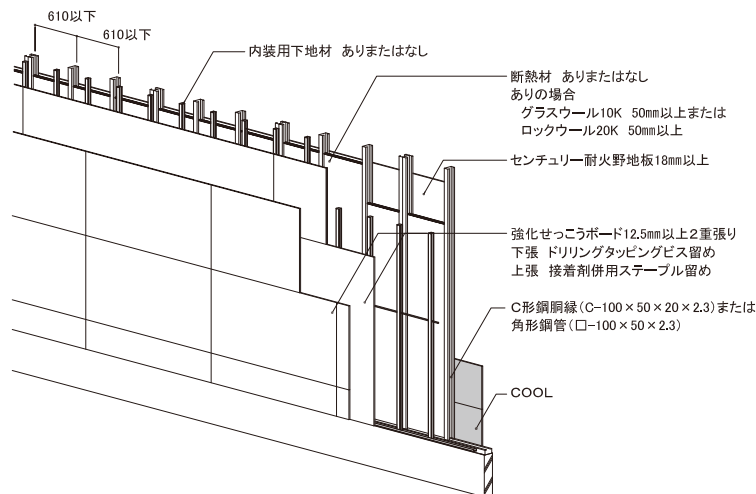
## 基本構成図

断熱材なし:FP060NE-0194-2(1) 断熱材あり:FP060NE-0194-2(2)

### ■下地組図(屋外側)



### ■下地組図(屋内側)



## 下地施工基準

#### ■躯体・サッシ

- 躯体(鉄骨造)に縦胴縁を@610mm以下とし、外壁面よりも外側に出るサッシを使用してください。

#### ■防水工事

- 通気土台水切は水平に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工してください。
- 外壁防水措置は、原則として防水紙を使用してください。
- 防水紙はモエン透湿防水シートⅠ・モエン透湿防水シートⅢ・モエン透湿防水シートⅣまたはモエン遮熱シートⅠ・モエン遮熱シートⅡを使用してください。
- 開口部まわり、換気口まわり、配管まわり、必要箇所の水切り取り合い部、バルコニー天端などの部位には、純正防水テープを必ず使用してください。

#### ■胴縁下地組み

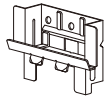
- 胴縁はC形鋼(C-100×50×20×2.3以上)または角形鋼管(□-100×50×2.3以上)を使用してください。センチュリー耐火野地板の左右接合部などはC形鋼ダブル抱き合わせまたは角形鋼管(□-100×100×2.3以上)としてください。

#### ■内装材工事

- 強化せつこうボードの留め付け材(ねじ・ステーブル・接着剤)の仕様については、「屋内側被覆材の施工」(P5)をご参照ください。

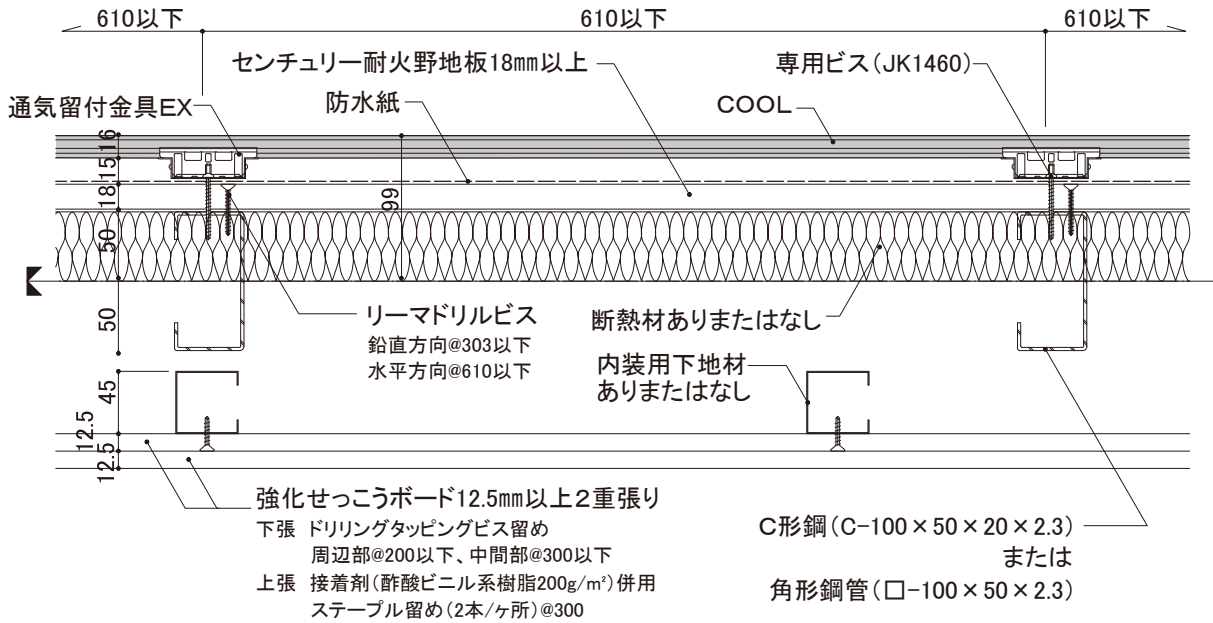
#### ■屋外側被覆材

- COOLの横目地とずらすよう、センチュリー耐火野地板の張り始めは高さ250mm程度としてください。

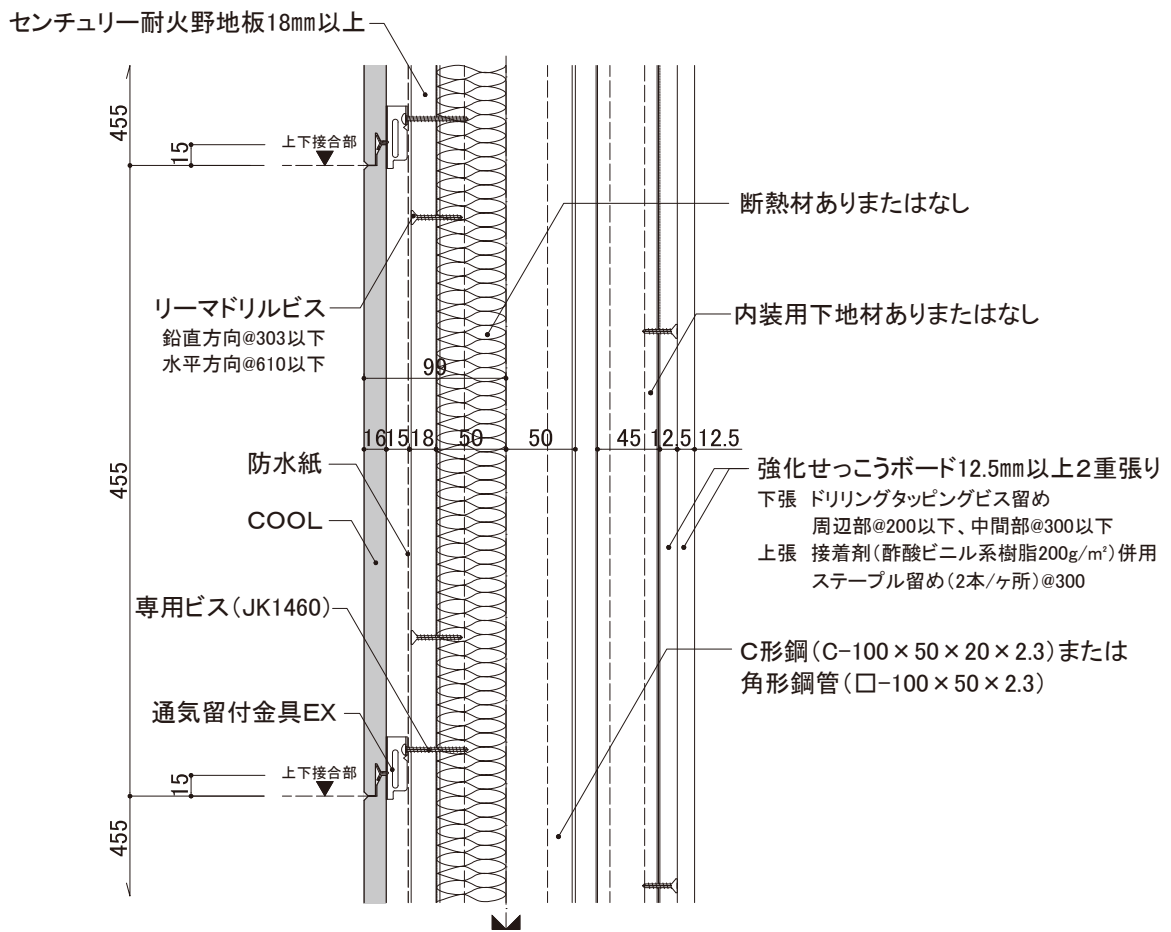


## 一般部

## 平面図・断面図

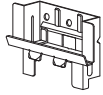


### 平面詳細図



### 断面詳細図

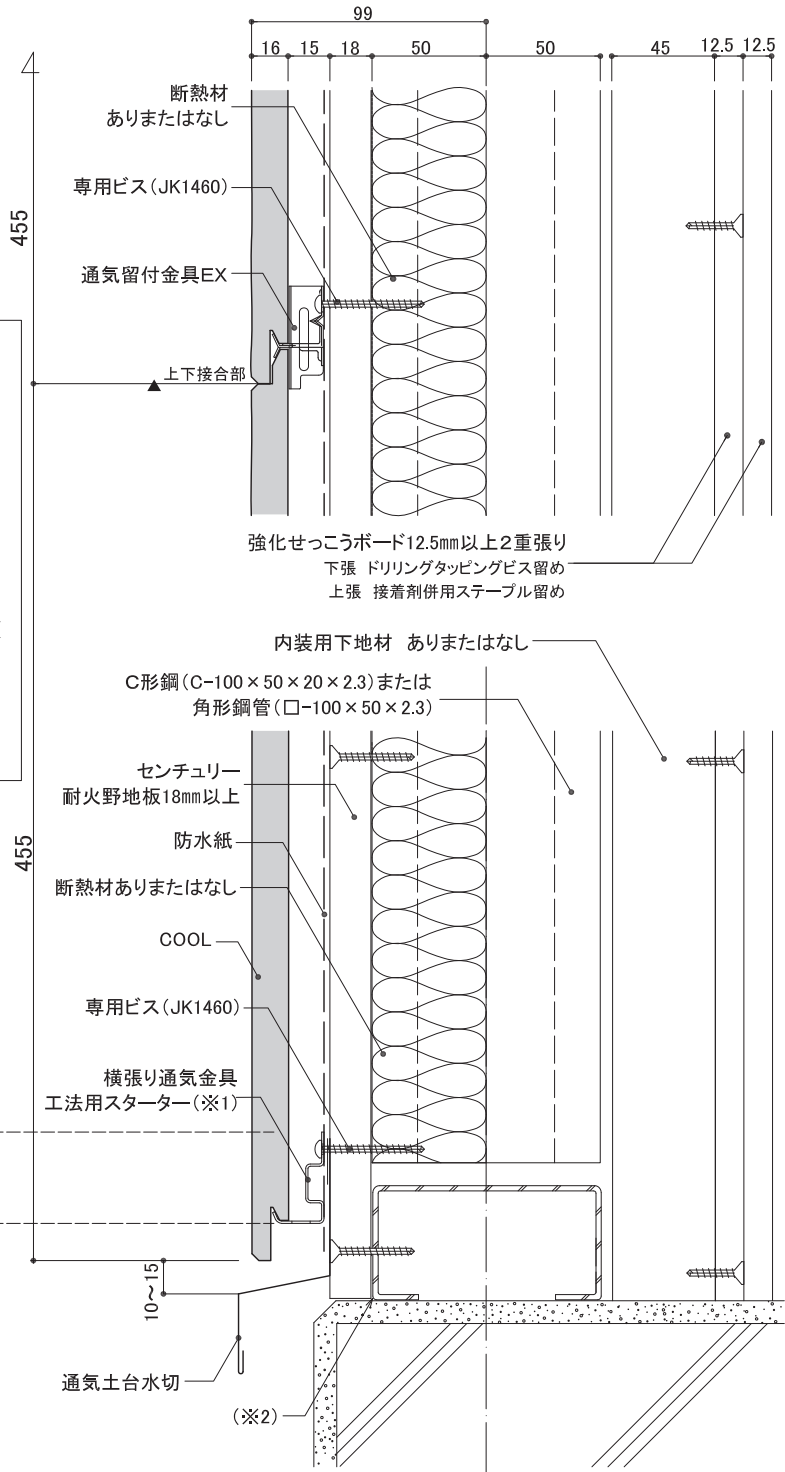
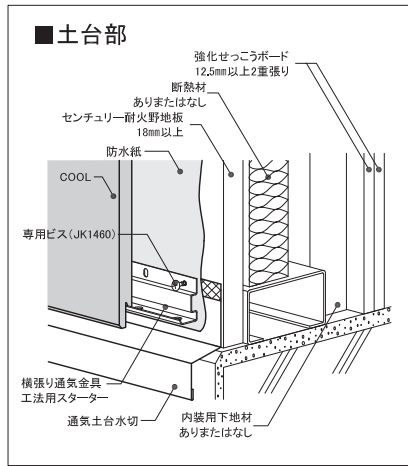
注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。



上下接合部  
土台部

通気留付金具

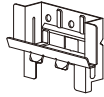
通気土台水切+横張り通気金具工法用スターター



※1 土台部のC形鋼と縦下地のC形鋼との隙間に留意し、土台水切およびスターターの位置を調整してください。

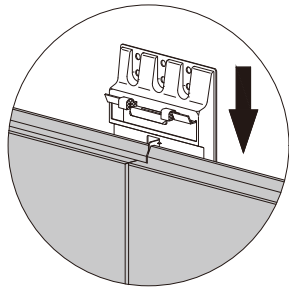
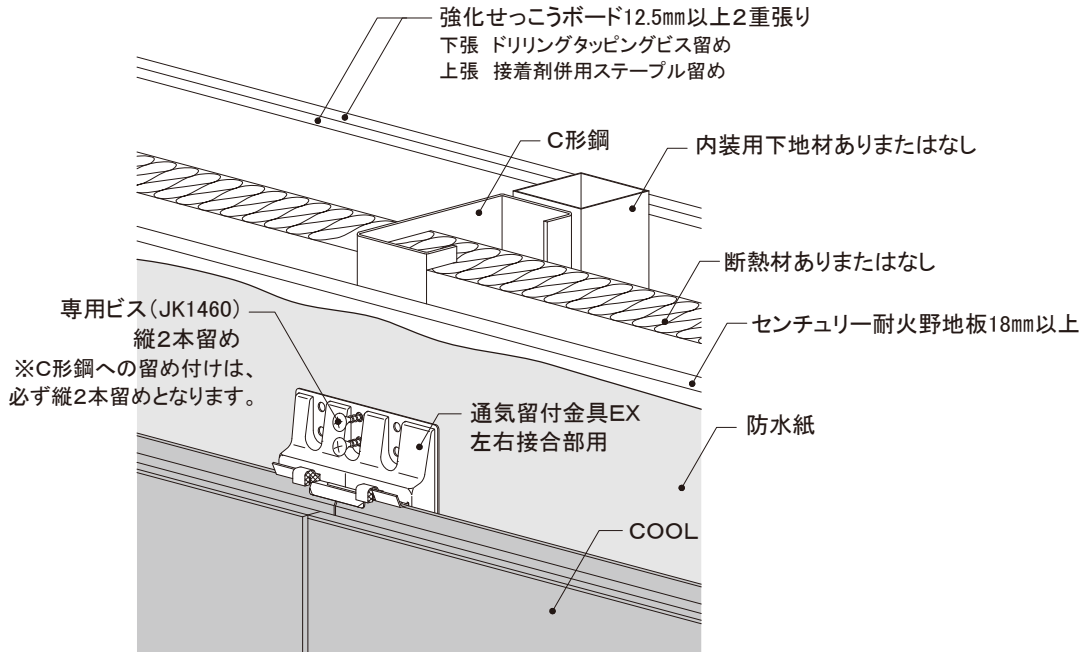
※2 吹き上げ等による雨水浸入を防ぐため、止水処理が確実に実行されていることを確認してください。

注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

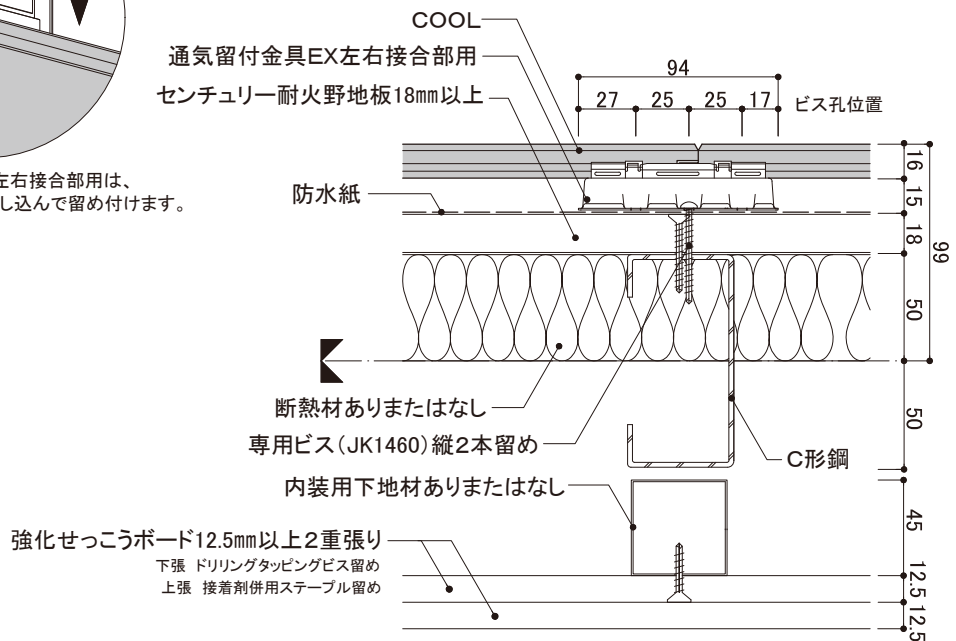


## 左右接合部

## 合いじゃくり



※通気留付金具EX左右接合部用は、  
実の間に上から差し込んで留め付けます。



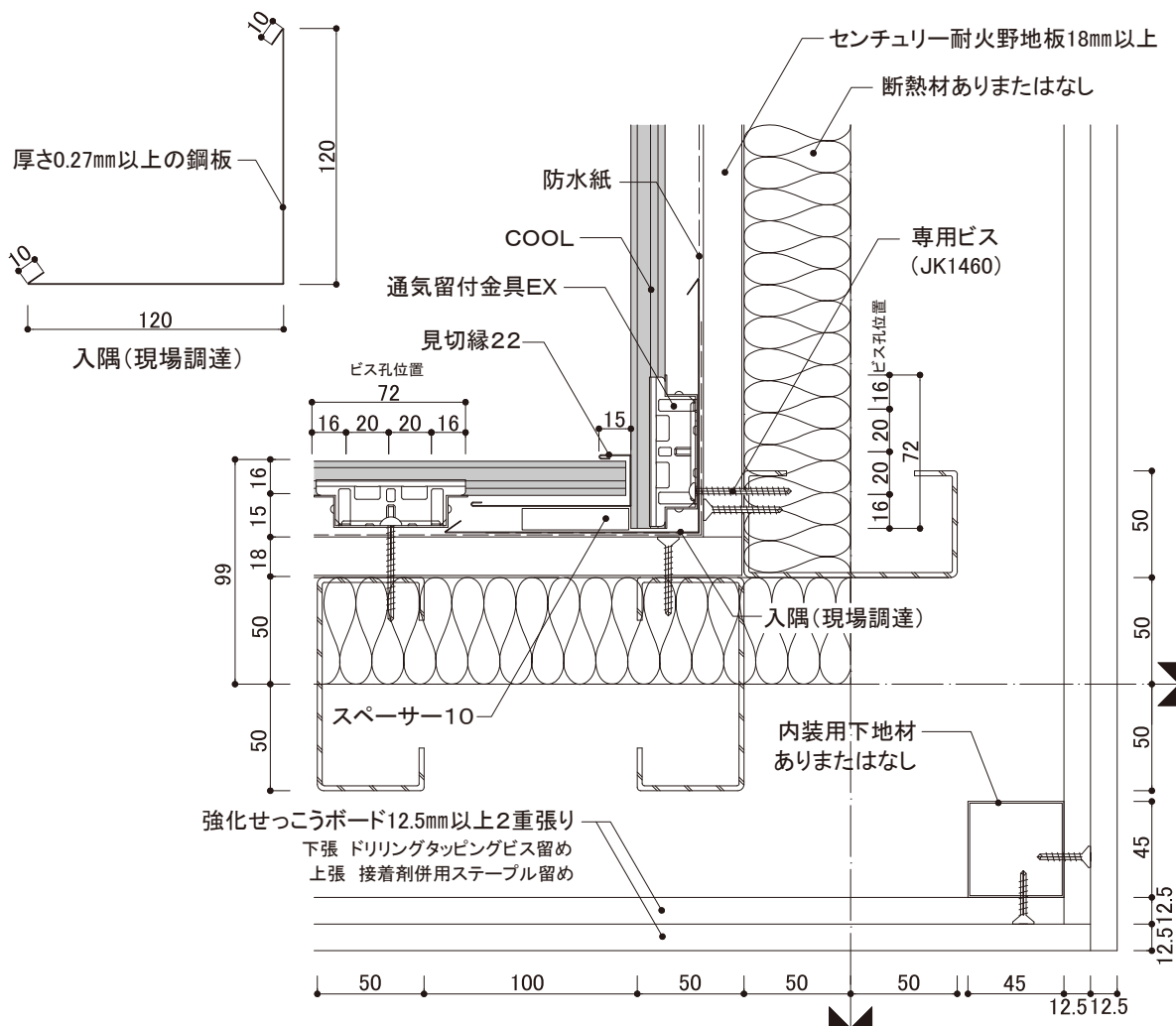
注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。



入隅部

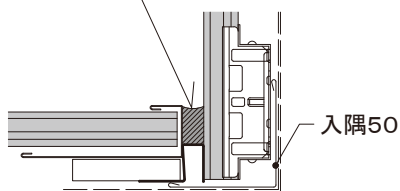
見切縁22+入隅(現場調達)

見切縁22+シーリング+入隅50



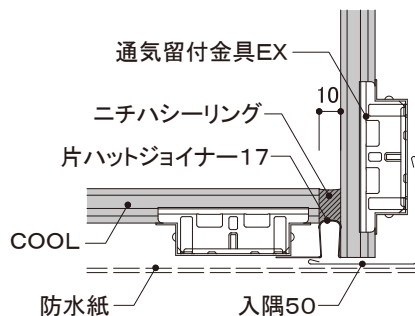
■入隅(現場調達)を使用しない場合  
[ミライア、一部のメモリア]

入隅50を使用し、見切縁22とCOOLの間に片ハットジョイナー17を入れ、ニチハシーリングを充填します。ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません)



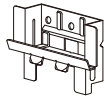
見切縁22や入隅とCOOLに隙間がある場合は、横ずれ防止のためにスペーサーを使用して隙間を埋めます。

[メモリア、イルミオ]



注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

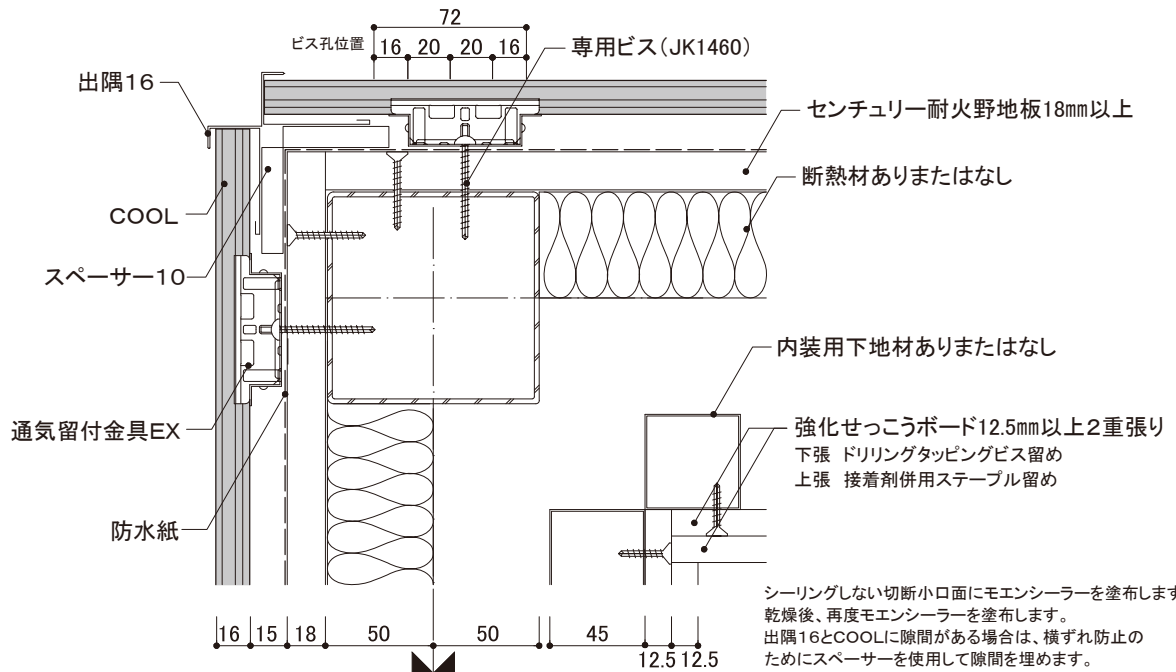




出隅部

出隅16

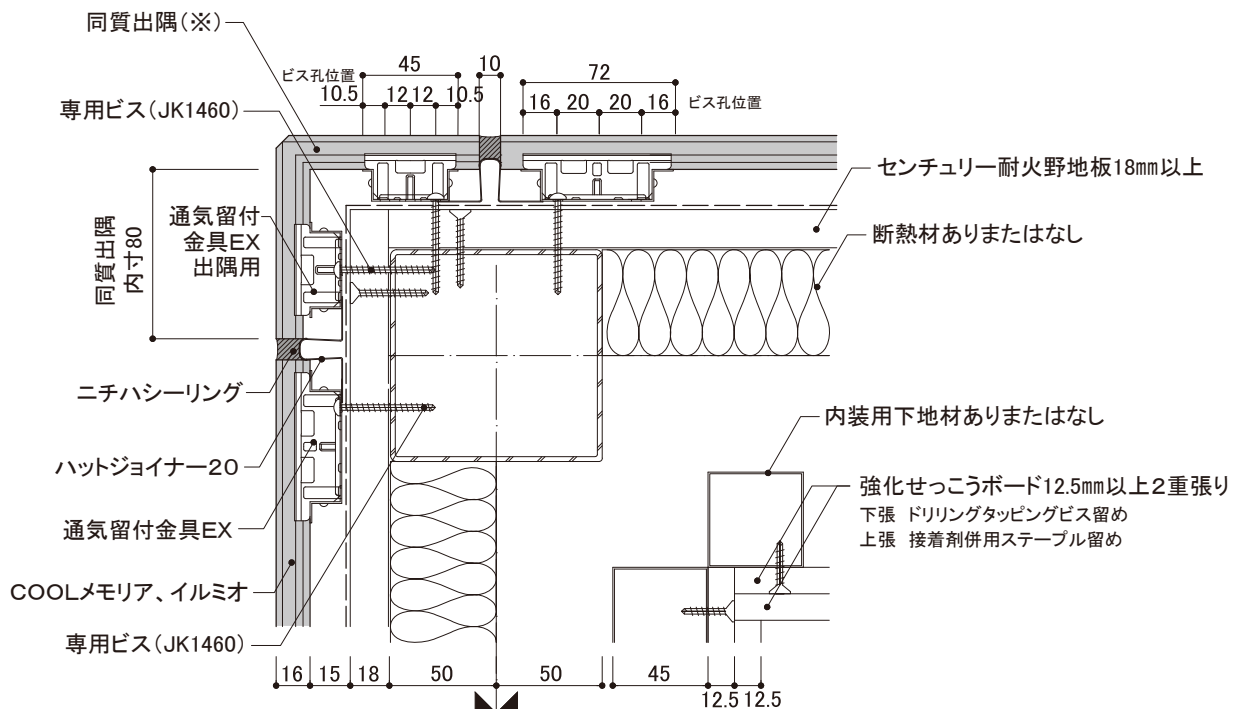
注：下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

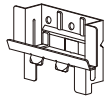


出隅部

同質出隅(メモリア※、イルミオ)

※一部のメモリアには同質出隅の設定がありません。  
注：下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。



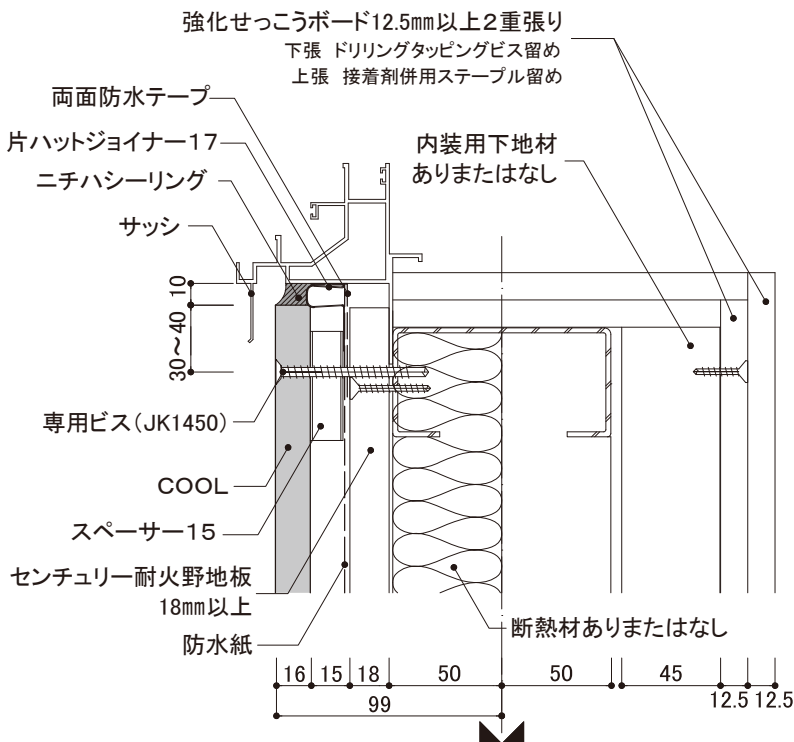
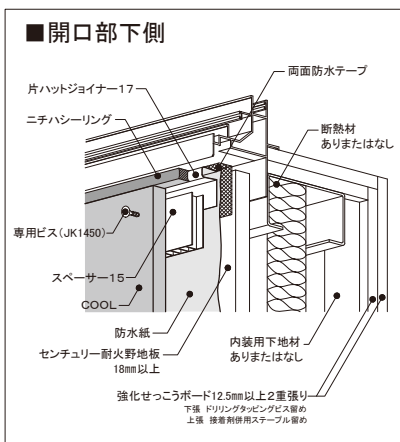
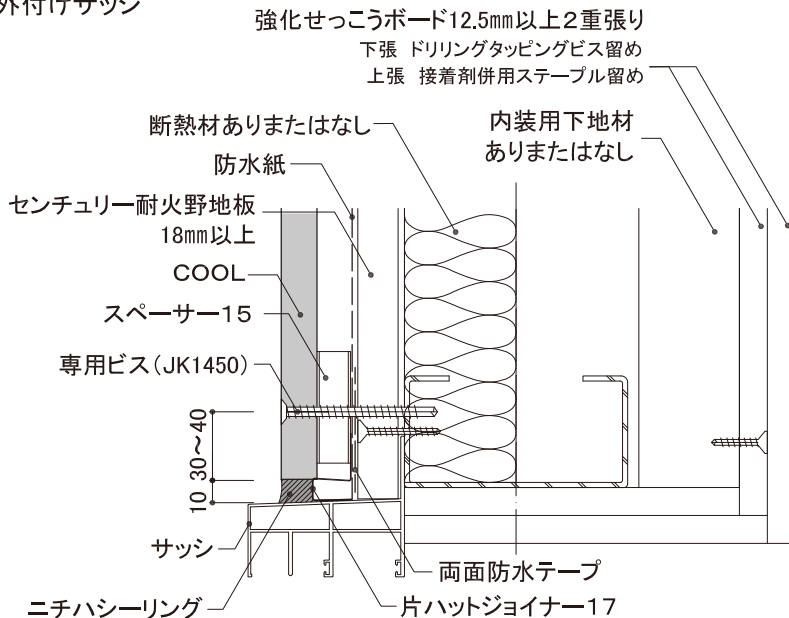
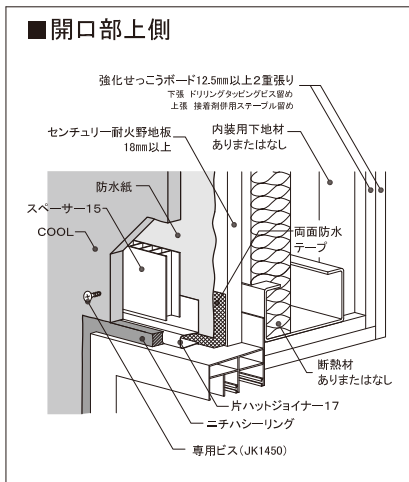


開口部周囲

開口部上側

開口部下側

■鉄骨造用外付けサッシ



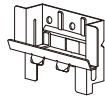
ビス頭

ミライア:ビス頭が隠れるよう補修シールを貼り付けます。詳細はP2 施工留意点をご参照ください。

メモリア、イルミオ:ビス頭の補修はニチハ補修用パテを埋めてから、専用補修液を必要最小限の範囲に塗布してください。

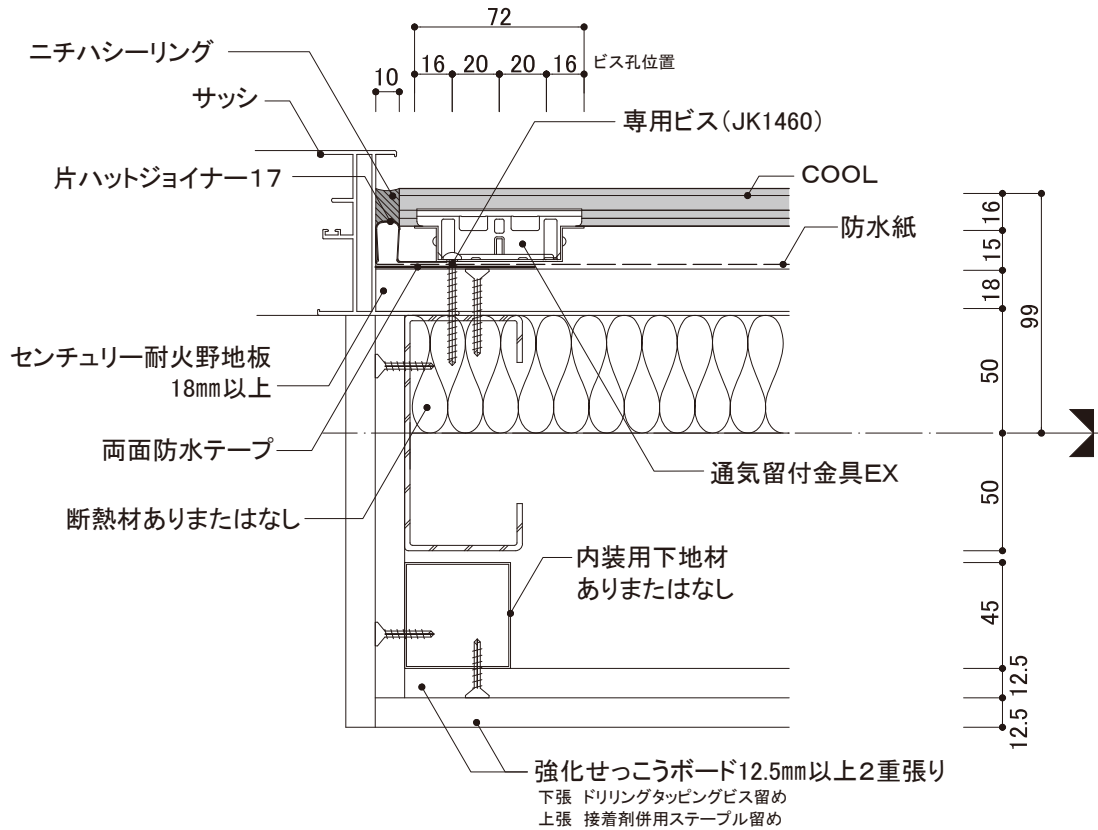
ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません。)

注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20、サッシは鉄骨造用外付けサッシを使用した場合の図面です。

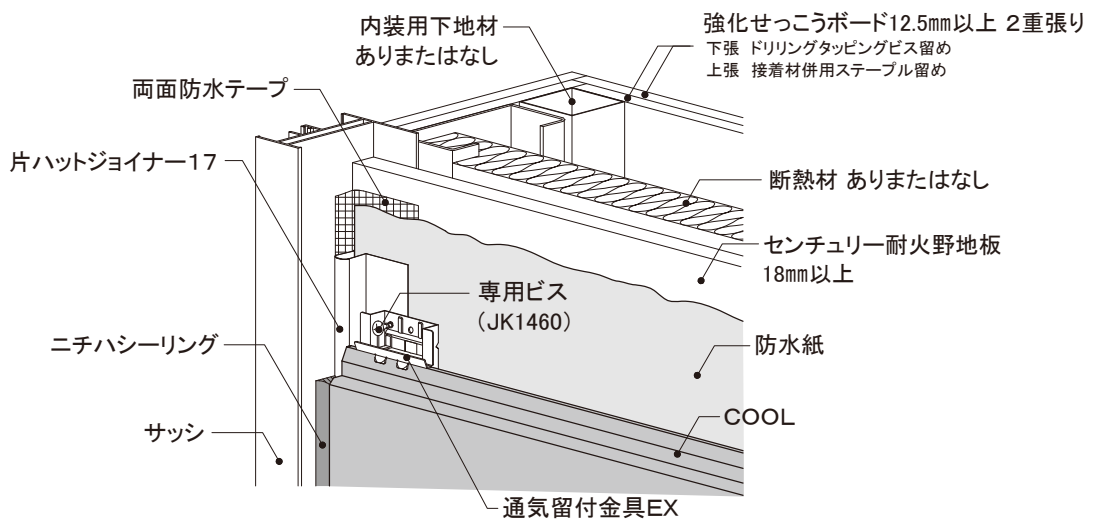


## 開口部周囲

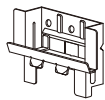
## 開口部左右



### ■ 開口部左右



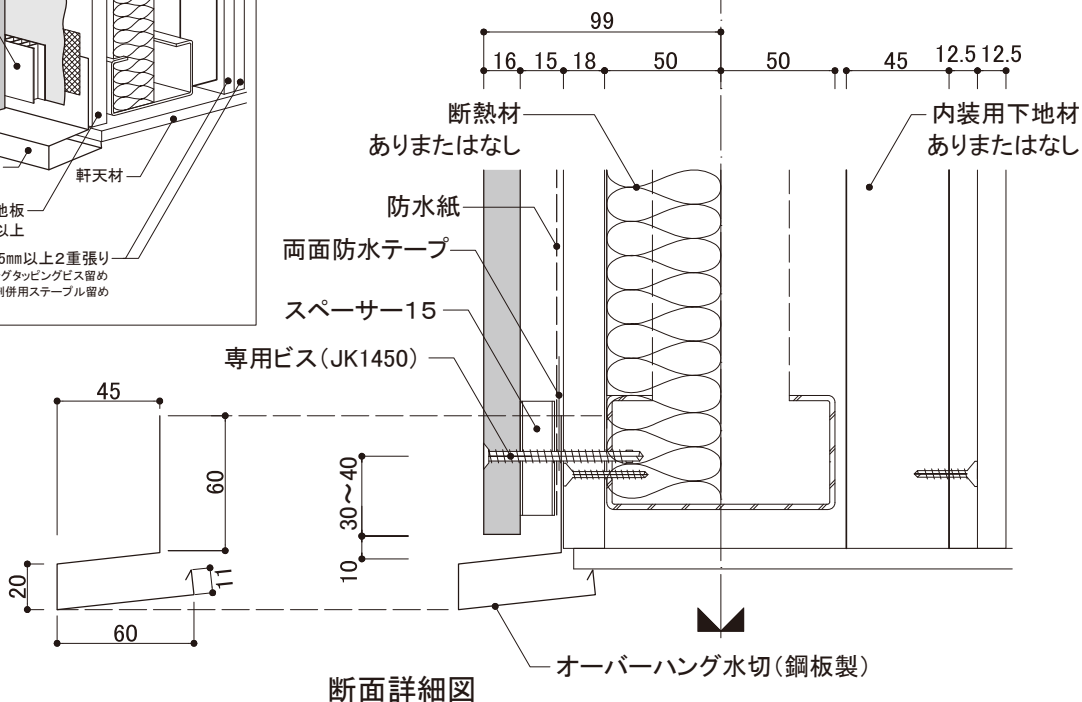
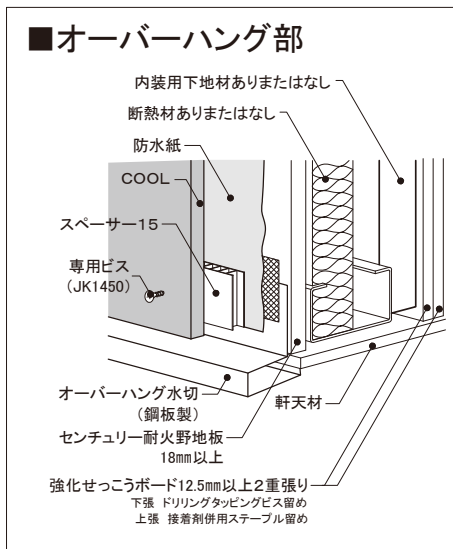
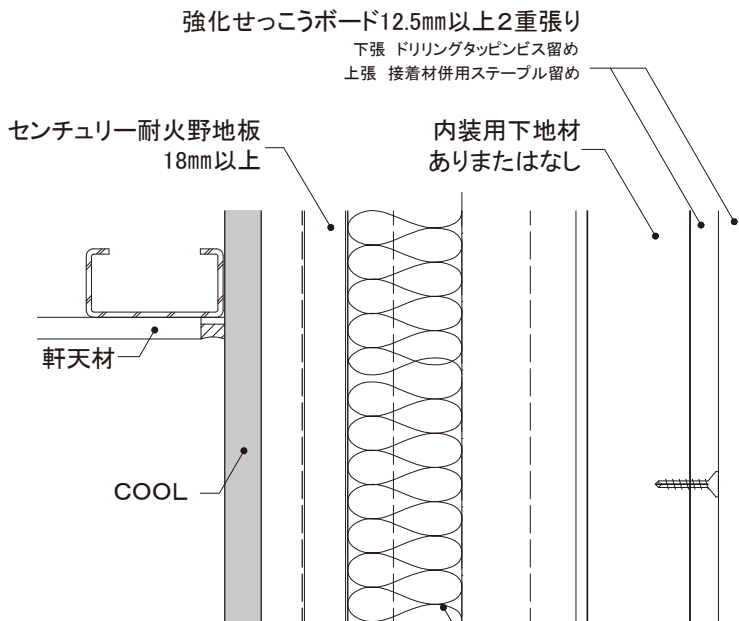
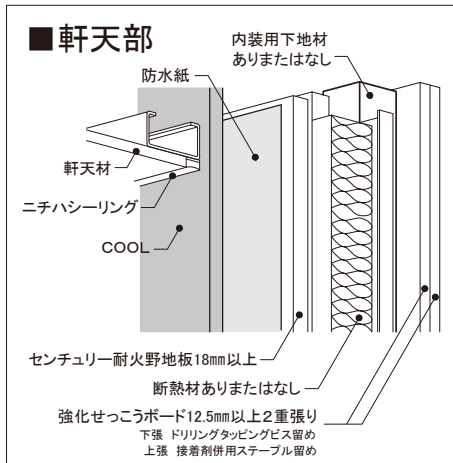
ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません。)  
注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。



## 軒天部

## オーバーハング部

## オーバーハング水切(鋼板製)



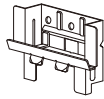
**小口**

COOL本体のシーリングをしない切断面は、モエンシーラーを十分塗布し乾燥後、見え掛り部分については小口専用補修塗料または専用補修液を塗布し、それ以外の部分はモエンシーラーを再度塗布してください。

注：下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

**ビス頭**

ミライア：ビス頭が隠れるよう補修シールを貼り付けます。詳細はP2施工留意点をご参照ください。メモリア、イルミオ：ビス頭の補修はニチハ補修用パテを埋めてから、専用補修液を必要最小限の範囲に塗布してください。

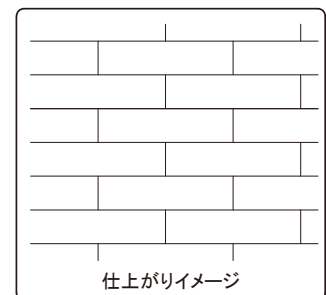
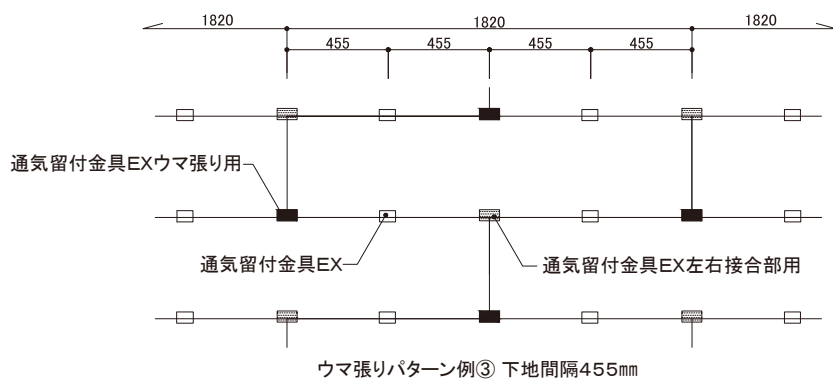
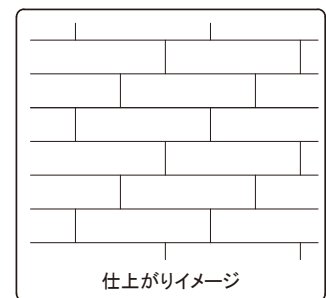
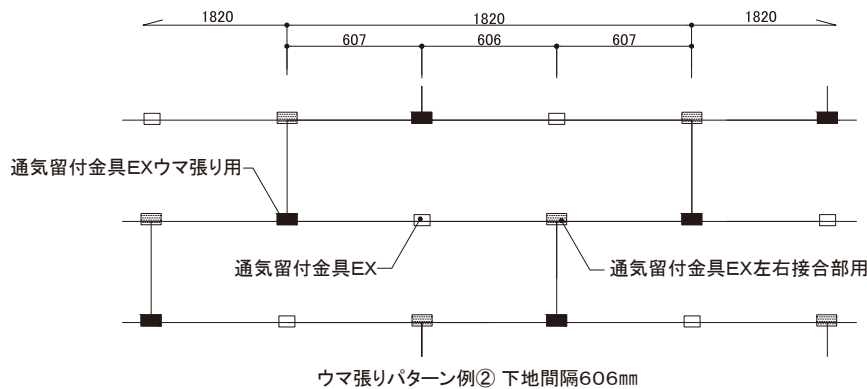
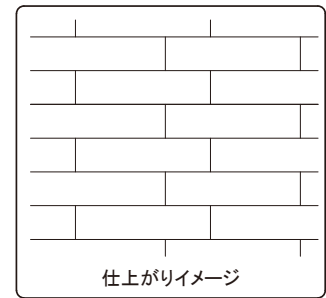
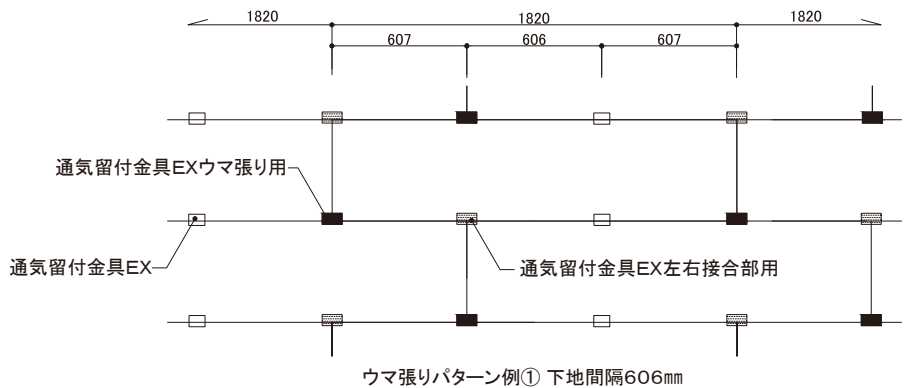


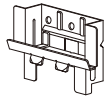
## 左右接合部(ウマ張り)

## 合いじゃくり

- ウマ張り施工は、一般部・左右接合部上側・左右接合部下側に、下記のようにそれぞれ指定の金具を使用し、留め付けてください。
  - ・一般部 通気留付金具EX(JE825)
  - ・左右接合部上側 通気留付金具EX左右接合部用(JEJ835)
  - ・左右接合部下側 通気留付金具EXウマ張り用(JEUS830※)
- ※JEUS830にはウマ張り金具10個、JEJ835 10個、EPDMシール1シート(EPDMシールはJEJ835に使用)が同梱されています。
- COOL1枚に使用する金具の個数は、下地の間隔で異なります。
 

【下地間隔606mmの場合】	【下地間隔455mmの場合】
・通気留付金具EXは1個	・通気留付金具EXは2個
・通気留付金具EX左右接合部用は1個	・通気留付金具EX左右接合部用は1個
・通気留付金具EXウマ張り用は1個	・通気留付金具EXウマ張り用は1個
- ウマ張り施工は施工高さ13m以下となります。

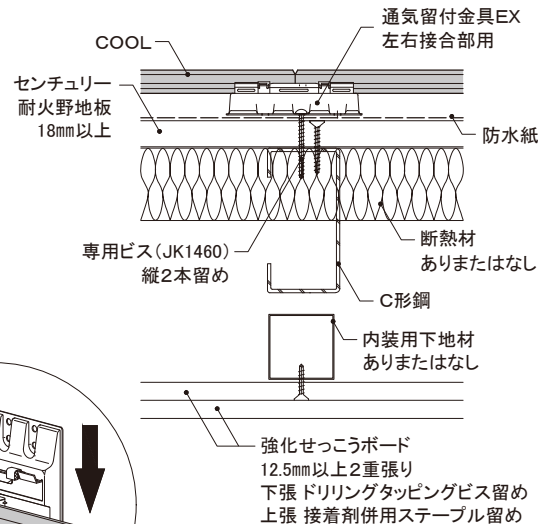
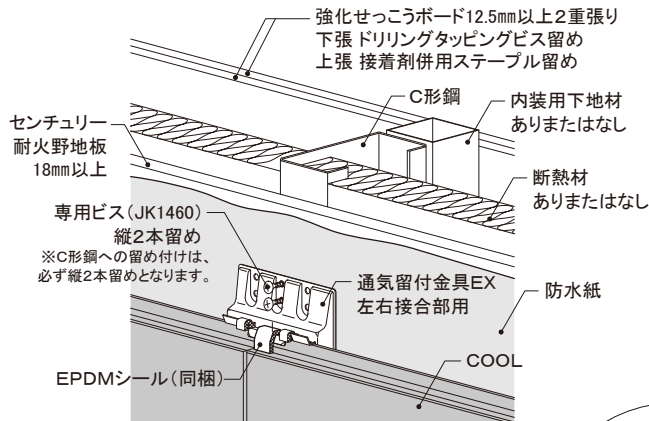




## 左右接合部(ウマ張り)

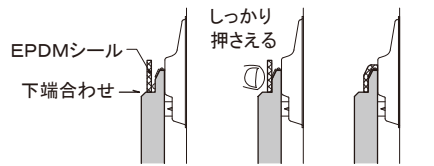
## ① 上端部

- 左右接合部の上側には、必ず通気留付金具EX左右接合部用を使用し、合いじゃくり部に確実に納め専用ビス(JK1460φ4. 2mm×45mm)2本で留め付けます。



### EPDMシール(同梱)の施工方法

- 通気留付金具EX左右接合部用を取り付け後、同梱のEPDMシールをCOOLの左右実にあたるよう下端合わせで貼り付けます。凹凸に追従するようにしっかりと押さえてください。



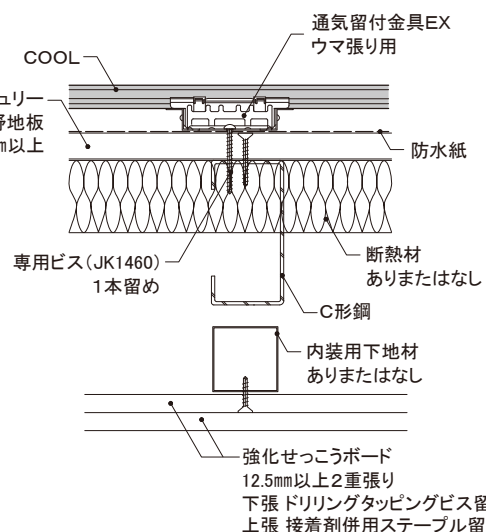
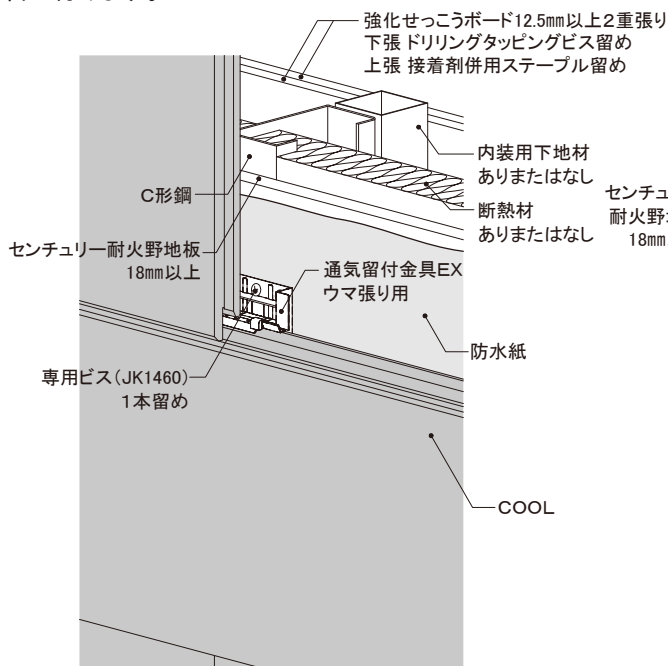
注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

※通気留付金具EX左右接合部用は、実の間に上から差し込んで留め付けます。

## 左右接合部(ウマ張り)

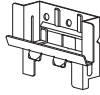
## ② 下端部

- 左右接合部の下側には、必ず通気留付金具EXウマ張り用を使用し、専用ビス(JK1460φ4. 2mm×45mm)1本で留め付けます。



注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。





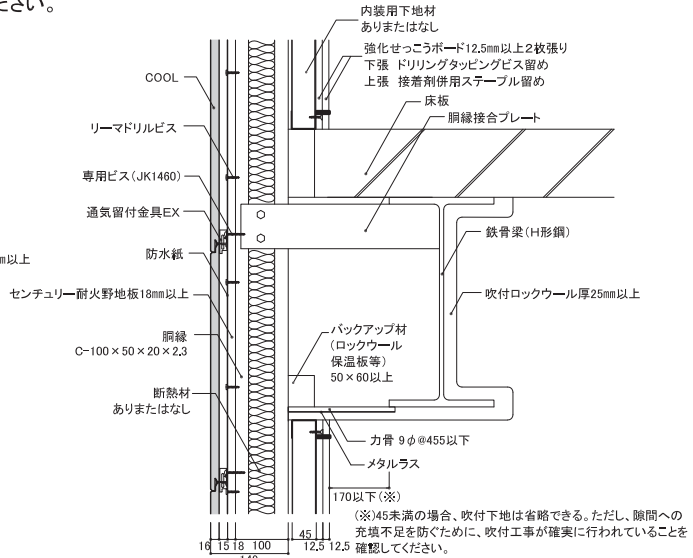
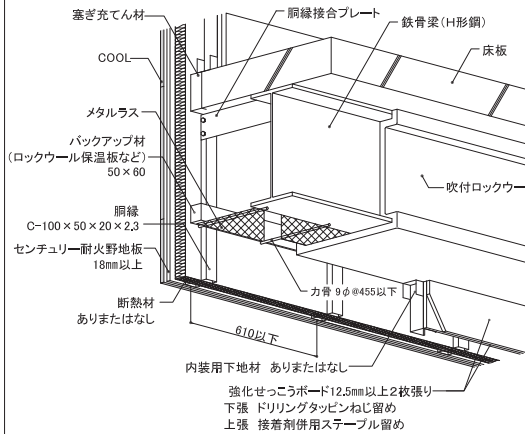
## 梁取り合い部

FP060BM-0351-1 (H-250 × 125 × 6 × 9mm以上) FP060BM-0380-1 (H-198 × 99 × 4.5 × 7mm以上)  
FP060BM-0631 (H-200 × 100 × 5.5 × 8mm以上)

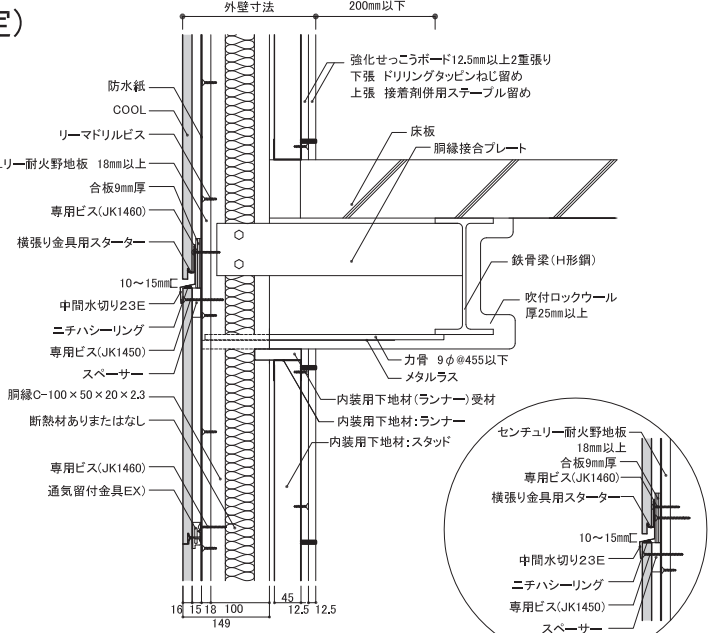
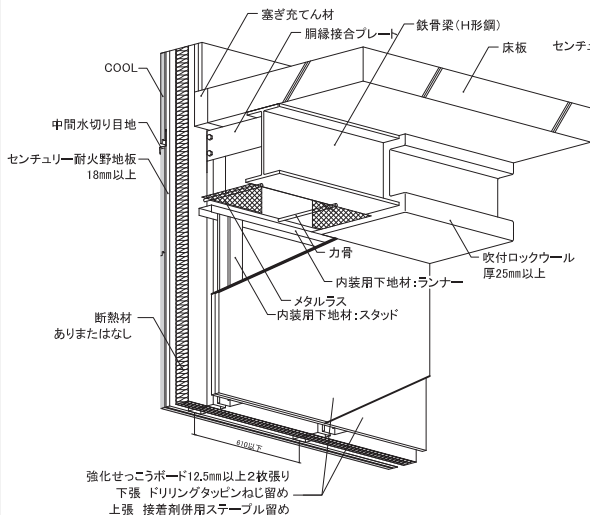
### ■梁部耐火被覆材の施工

- ラス下地工事は、カ骨を鉄骨梁に溶接などで取り付け、メタルラスを鉄骨梁と外壁の間に結束線で張り付けます。
- 鋼板下地表面の浮き錆および付着油など、吹付ロックウールの付着性に支障をきたすおそれのあるものは十分清掃してください。
- 吹付下地の取り付け
  - 下地は300～450mm間隔でカ骨(φ9mm丸鋼)の一端を鉄骨へ溶接し、メタルラス(平ラス3号または同等品)をカ骨へ緊結します。
  - 中空タイプのメタルラスの張り付けは中空の形状に応じて、鉄骨周囲の吹付面にメタルラスを張り付けてください。
- 養生
  - 施工前は、吹付により材料が周囲への飛散防止のためシートなどで養生します。
  - 施工後は、吹付作業を完了した部分が、衝撃および雨水などで障害を受けないよう適切な養生を行います。
  - 寒冷地では厳重な凍結防止対策養生を行います。
  - 吹付仕上げにはコテ押さえをしてください。
- 被覆材(吹付ロックウール)の施工
  - 吹付作業は、材料の配合、吐出量の調整および吹付作業について、ロックウール工業会編「吹付ロックウール被覆耐火構造施工品質管理指針」に従い、規定の品質を確保してください。
  - ロックウール工業会指定の測定具で、吹付け面積5㎡ごとに1ヶ所以上、ロックウールの厚さ25mm以上を確認しながら施工します。
- 外壁の施工
  - 外壁の施工は、外壁耐火構造各部納まり図をご参照ください。

### ■鉄骨梁(198 × 99 × 4.5 × 7mm以上)



### ■鉄骨梁(200 × 100 × 5.5 × 8mm以上) 中間水切仕様(内装用下地材あり限定)



●認定により使用できる鋼材が異なりますので、認定書別添の内容をご確認ください。

※横張り用スターター下地の合板9mmには1000mm以下で30mmの隙間を設けます。



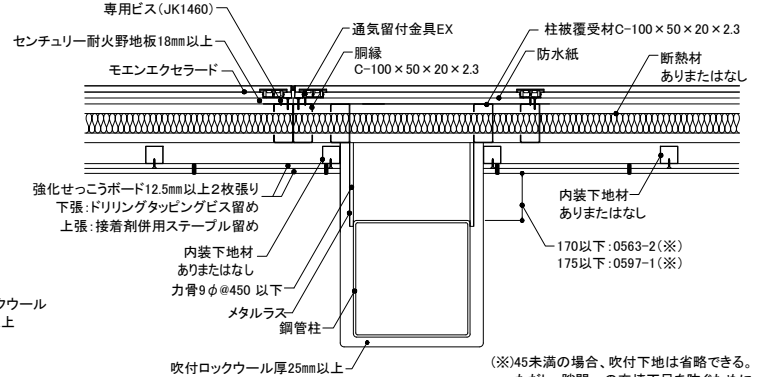
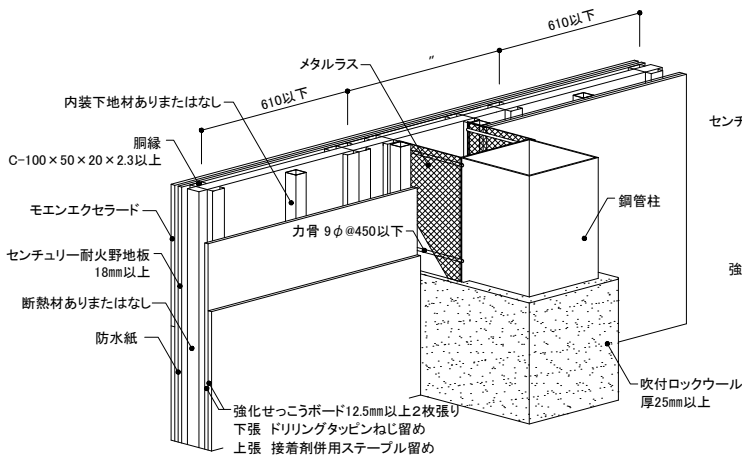
## 柱取り合い部

鋼管柱: FP060CN-0563-2 (□-300×300×9mm以上)、FP060CN-0597-1 (□-200×200×6mm以上)  
鉄骨柱: FP060CN-0564-1 (H-300×300×10×15mm以上)

### ■柱部耐火被覆材の施工

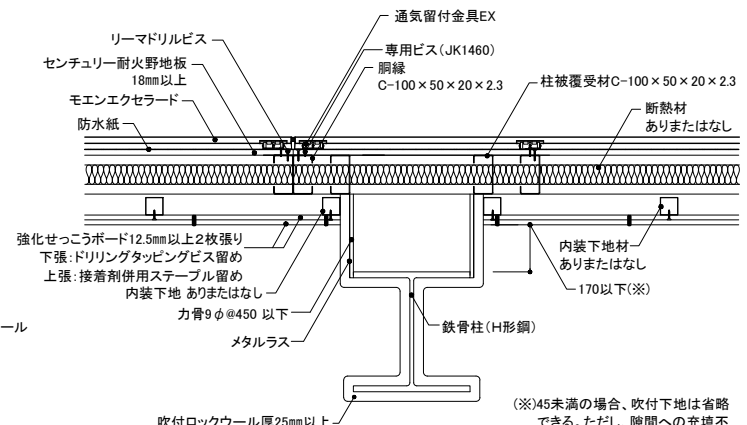
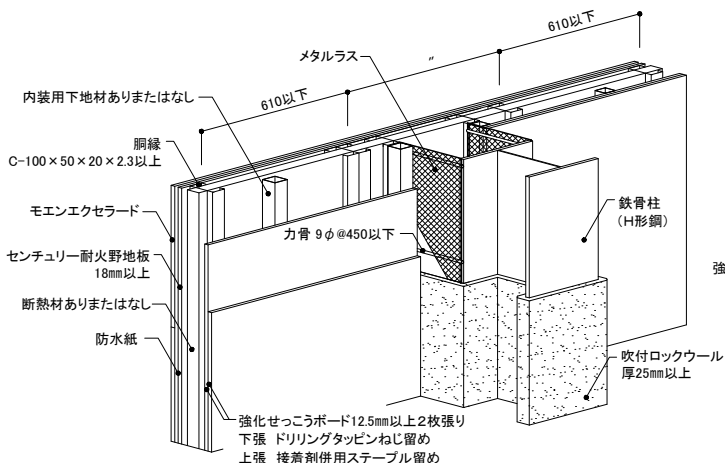
- 柱は鋼管柱(断面寸法□-200×200×6mm以上)または鉄骨柱(H-300×300×10×15mm以上)を使用します。
- ラス下地工事は、力骨を柱に溶接などで取り付け、メタルラスを柱と外壁の間に結束線で張り付けます。
- 鋼板下地表面の浮き錆および付着油など、吹付ロックウールの付着性に支障をきたすおそれのあるものは十分清掃してください。
- 吹付下地の取り付け
  - 下地は300~450mm間隔で力骨(φ9mm丸鋼)の一端を鉄骨へ溶接し、メタルラス(平ラス3号または同等品)を力骨へ緊結します。ただし、外壁と鉄骨下地の取合部間隔が45mm未満の場合は、その部分の吹付下地が省略できます。なお、取合部間隔は200mm以上にはできません。
  - 中空タイプのメタルラスの張り付けは中空の形状に応じて、鉄骨周囲の吹付面にメタルラスを張り付けてください。
- 養生
  - 施工前は、吹付による材料の周囲への飛散防止のためシートなどで養生します。
  - 施工後は、吹付作業が完了した部分が、衝撃および雨水などで障害を受けないよう適切な養生を行います。
  - 寒冷地では厳重な凍結防止対策養生を行います。
  - 吹付仕上げにはコテ押さえをしてください。
- 被覆材(吹付ロックウール)の施工
  - 吹付作業は、材料の配合、吐出量の調整および吹付作業について、ロックウール工業会編「吹付ロックウール被覆耐火構造施工品質管理指針」に従い、規定の品質を確保してください。
  - ロックウール工業会指定の測定具で、吹付け面積5㎡ごとに1ヶ所以上、ロックウールの厚さ25mm以上を確認しながら施工します。
- 外壁の施工
  - 外壁の施工は、外壁耐火構造各部納まり図をご参照ください。

### ■鋼管柱(200×200×6mm以上)



(※)45未満の場合、吹付下地は省略できる。ただし、隙間への充填不足を防ぐために、吹付工事が確実にに行われていることを確認してください。

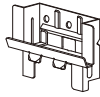
### ■鉄骨柱(300×300×10×15mm以上)



(※)45未満の場合、吹付下地は省略できる。ただし、隙間への充填不足を防ぐために、吹付工事が確実にに行われていることを確認してください。

※認定により使用できる鋼材が異なりますので、認定書別添の内容をご確認ください。

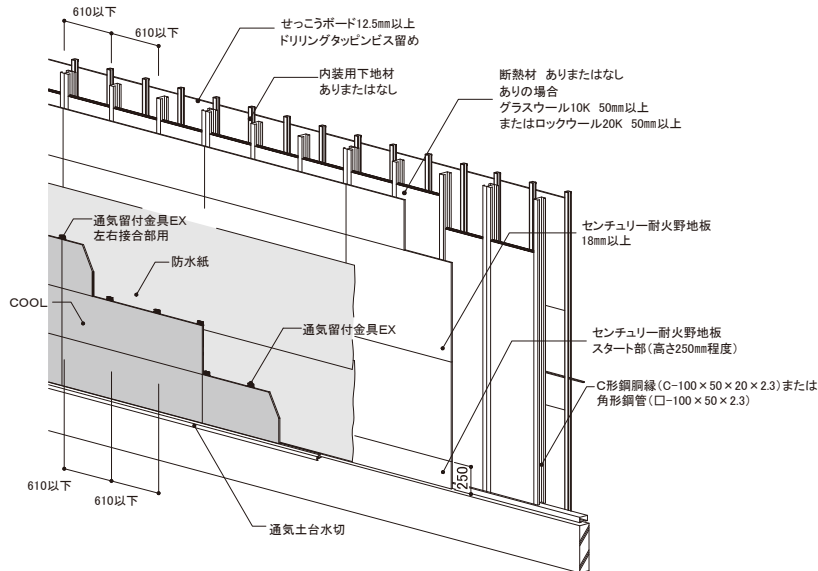




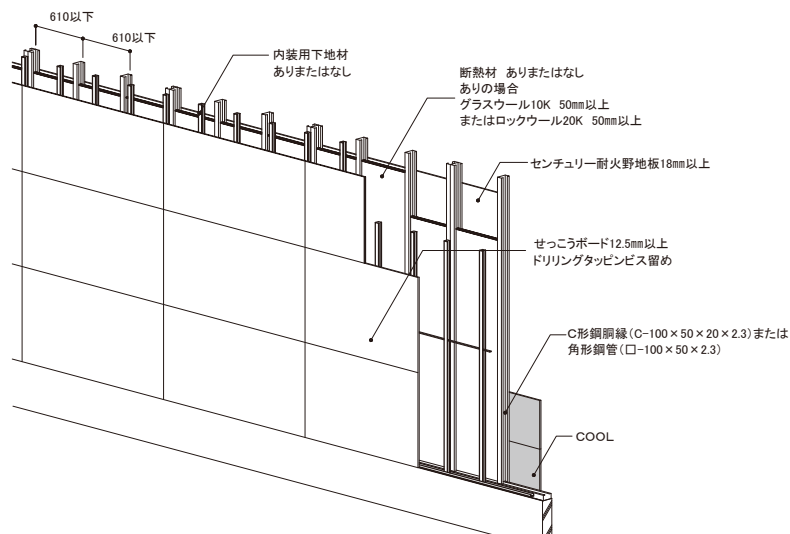
## 基本構成図

断熱材なし:FP030NE-0192-2(1) 断熱材あり:FP030NE-0192-2(2)

### ■下地組図(屋外側)



### ■下地組図(屋内側)



## 下地施工基準

### ■躯体・サッシ

- 躯体(鉄骨造)に縦胴縁を@610mm以下とし、外壁面よりも外側に出るサッシを使用してください。

### ■防水工事

- 通気土台水切を水平に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工してください。
- 外壁防水措置は、原則として防水紙を使用してください。
- 防水紙はモエン透湿防水シートⅠ・モエン透湿防水シートⅢ・モエン透湿防水シートⅣまたはモエン遮熱シートⅠ・モエン遮熱シートⅡを使用してください。
- 開口部まわり、換気口まわり、配管まわり、必要箇所の水切り合い部、バルコニー天端などの部位には、純正防水テープを必ず使用してください。

### ■胴縁下地組み

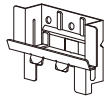
- 胴縁はC形鋼(C-100×50×20×2.3以上)または角形鋼管(□-100×50×2.3以上)を使用してください。センチュリー耐火野地板の左右接合部等はC形鋼ダブル抱き合わせまたは角形鋼管(□-100×100×2.3以上)としてください。

### ■内装材工事

- せっこうボードの留め付け材(ビス)の仕様については、P5「屋内側被覆材の施工」をご参照ください。

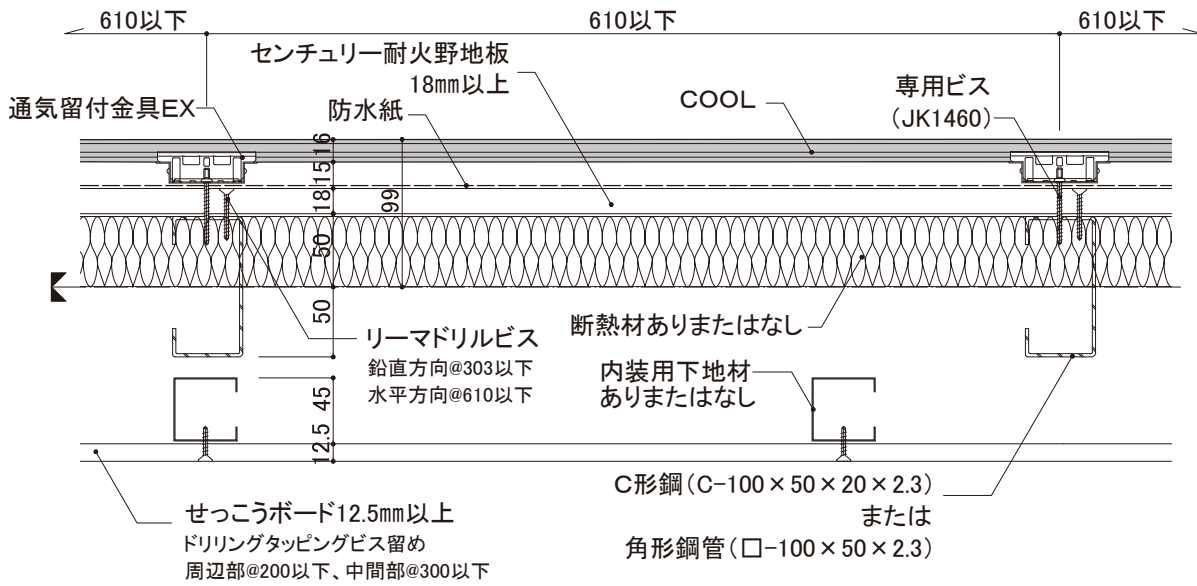
### ■屋外側被覆材

- COOLの横目地と重ならないよう、センチュリー耐火野地板の張り始めは高さ250mm程度としてください。

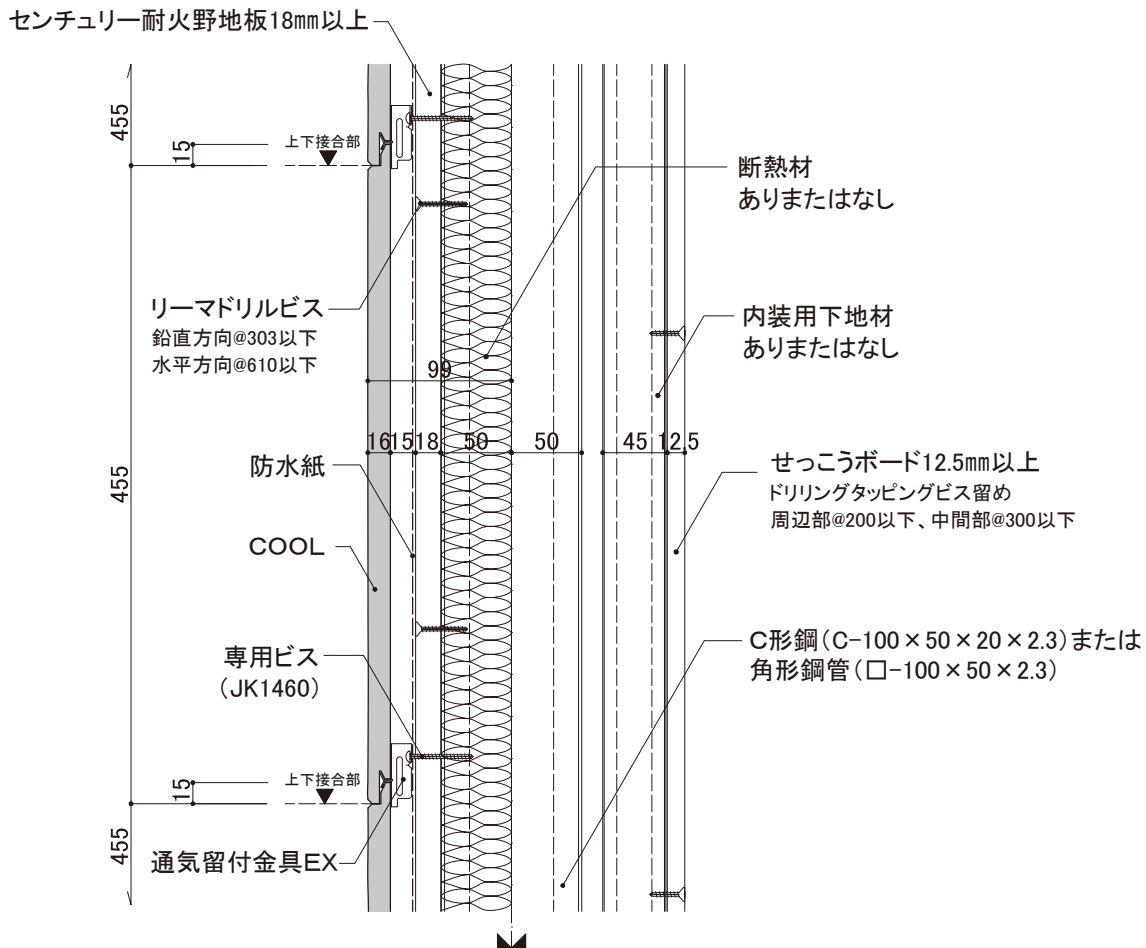


一般部

平面図・断面図

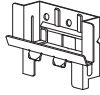


平面詳細図



断面詳細図

注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

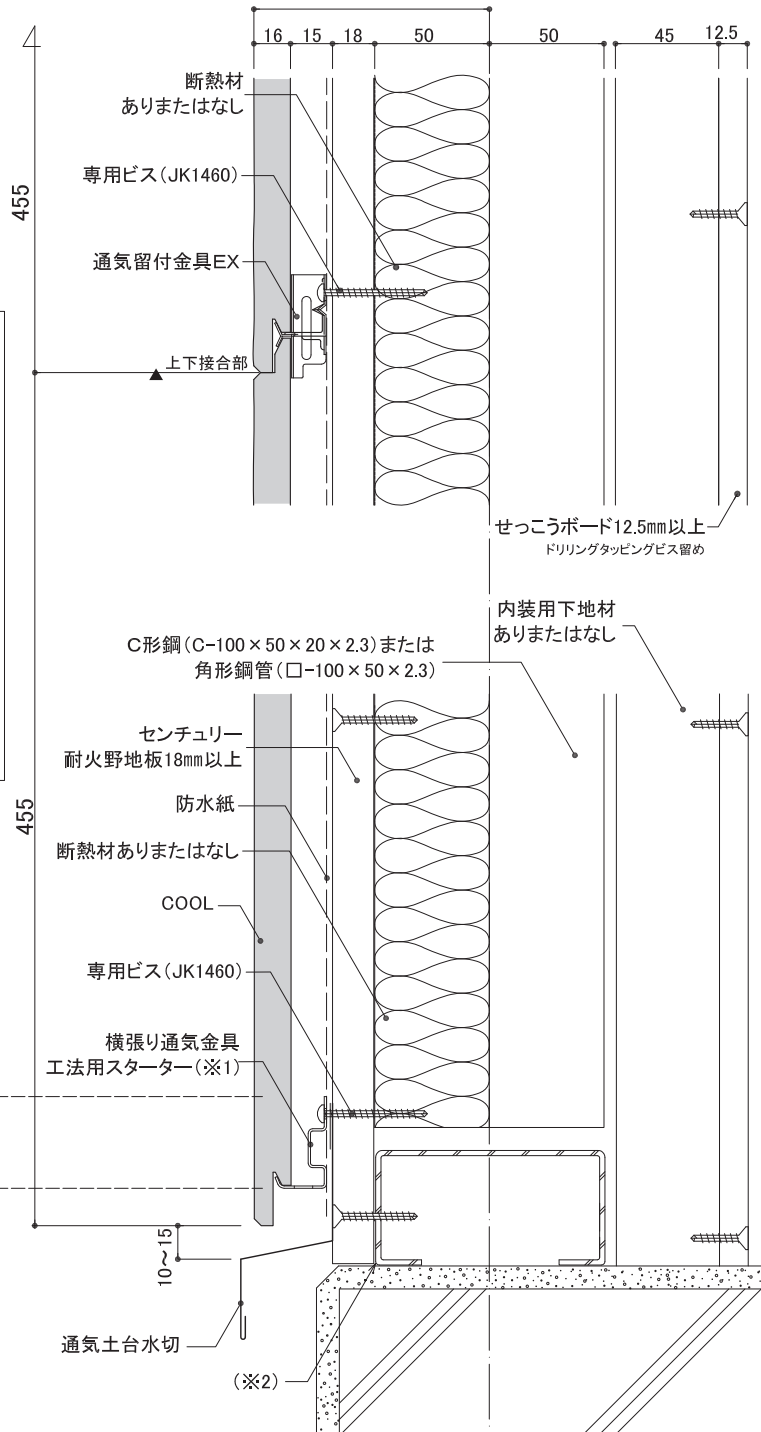
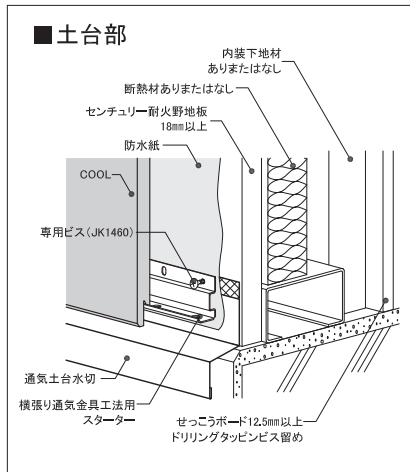


上下接合部

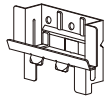
通気留付金具EX

土台部

通気土台水切+横張り通気金具工法用スターター

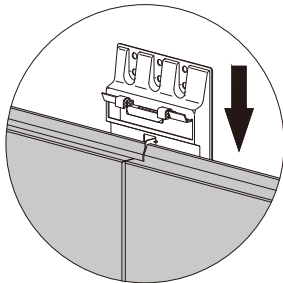
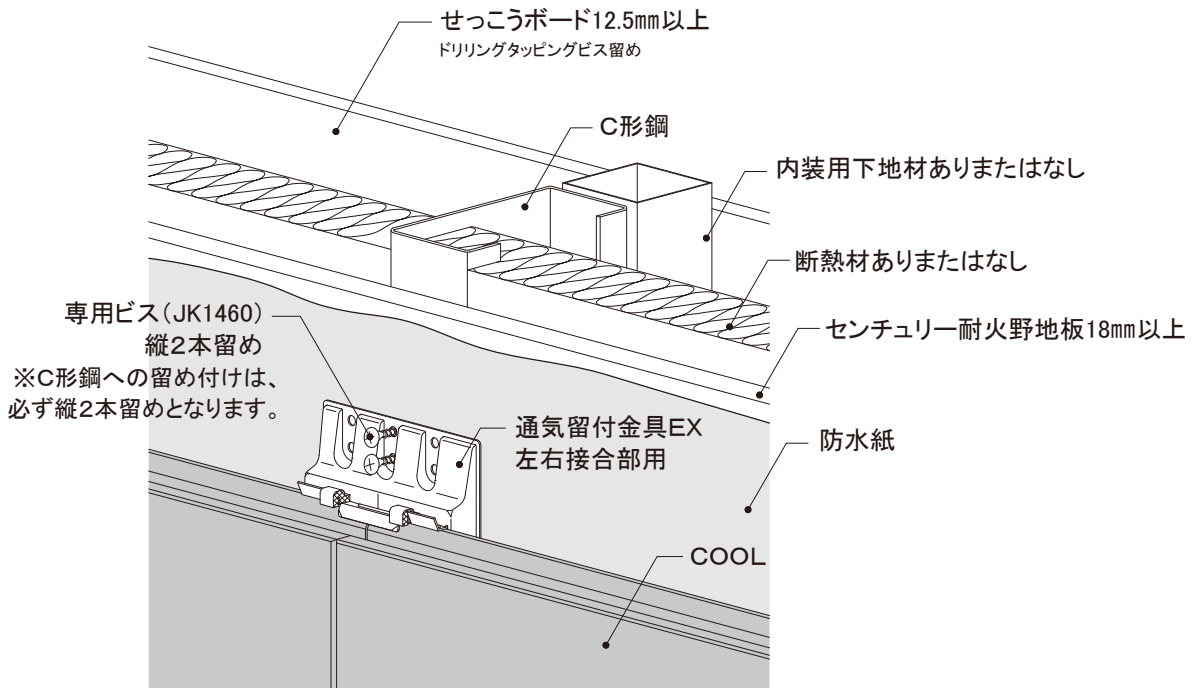


※1 土台部のC形鋼と縦下地のC形鋼との隙間に留意し、土台水切およびスターターの位置を調整してください。  
 ※2 吹き上げ等による雨水浸入を防ぐため、止水処理が確実にされていることを確認してください。  
 注：下地鉄骨筋縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

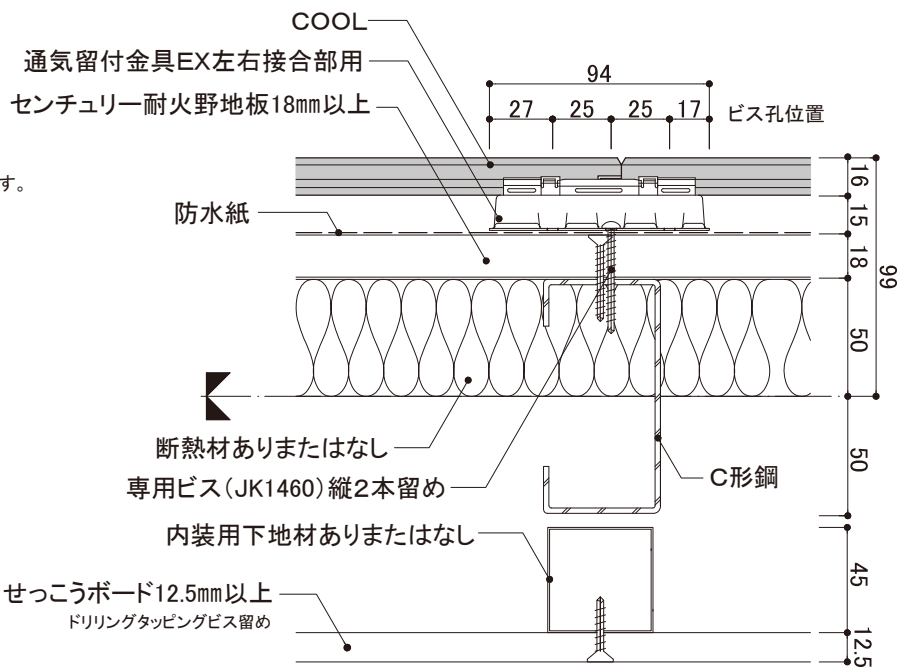


## 左右接合部

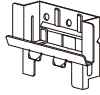
## 合いじゃくり



※通気留付金具EX左右接合部用は、  
実の間に上から差し込んで留め付けます。



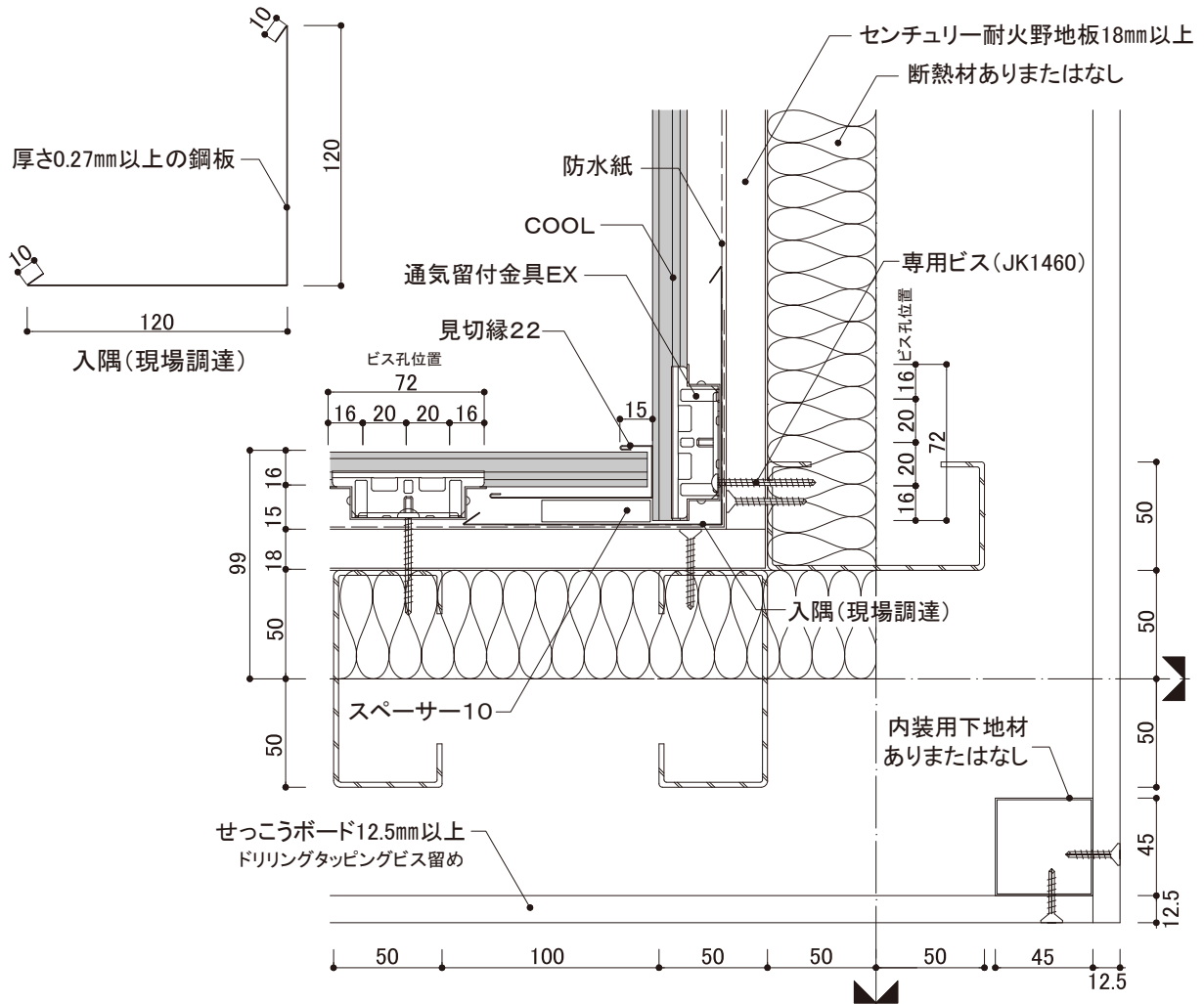
注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。



入隅部

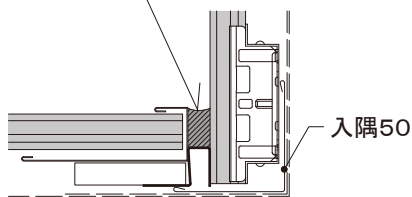
見切縁22+入隅(現場調達)

見切縁22+シーリング+入隅50



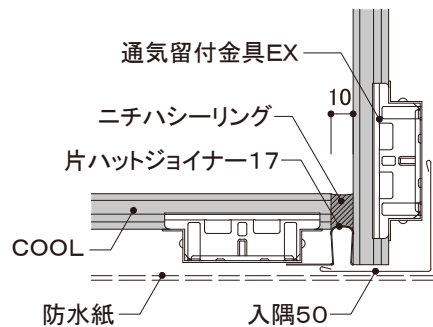
■入隅(現場調達)を使用しない場合  
[ミライア、一部のメモリア]

入隅50を使用し、見切縁22とCOOLの間に片ハットジョイナー17を入れ、ニチハシーリングを充填します。ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません)

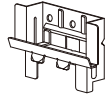


見切縁22や入隅とCOOLに隙間がある場合は、横ずれ防止のためにスペーサーを使用して隙間を埋めます。

[メモリア、イルミオ]



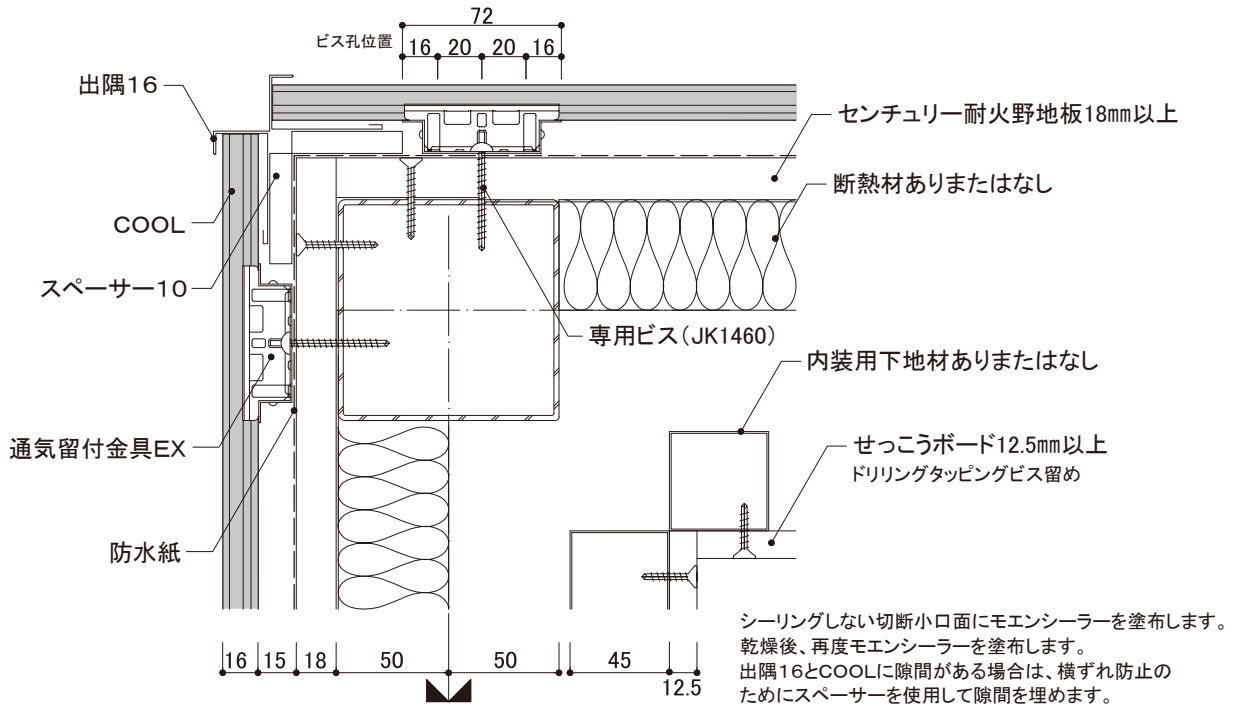
注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。



## 出隅部

## 出隅16

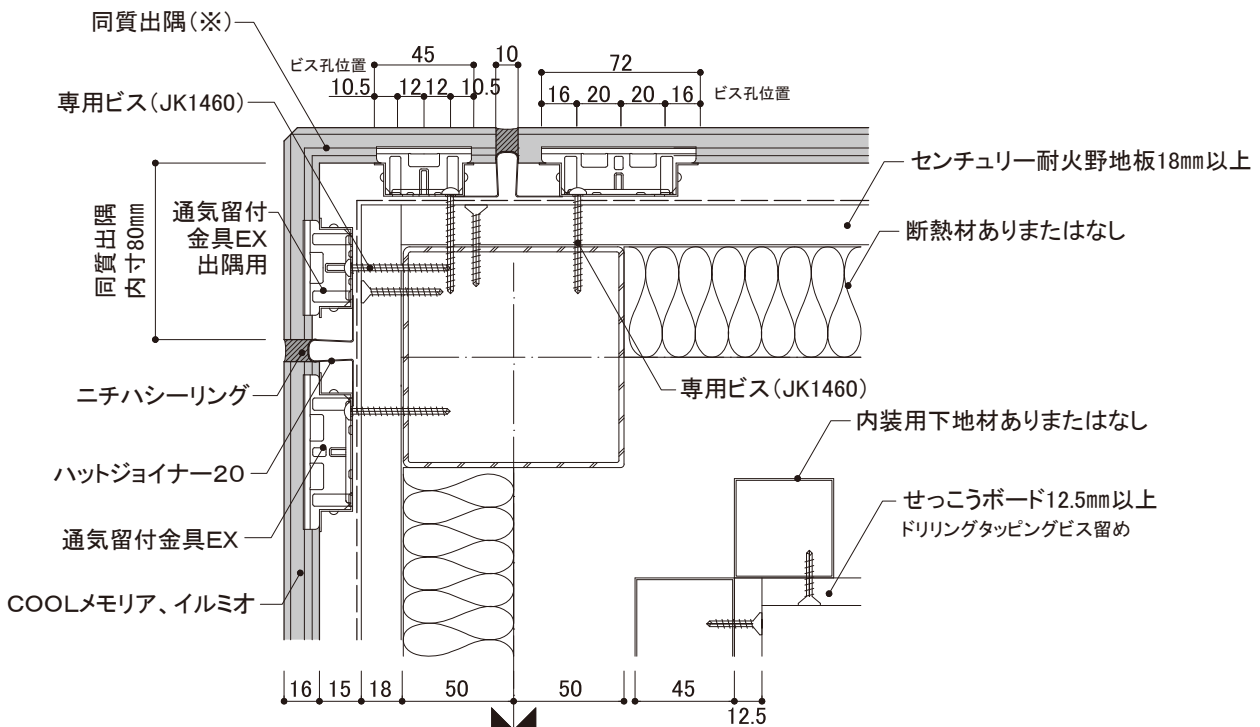
注：下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

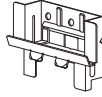


## 出隅部

## 同質出隅(メモリア※、イルミオ)

※一部のメモリアには同質出隅の設定がありません。  
注：下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

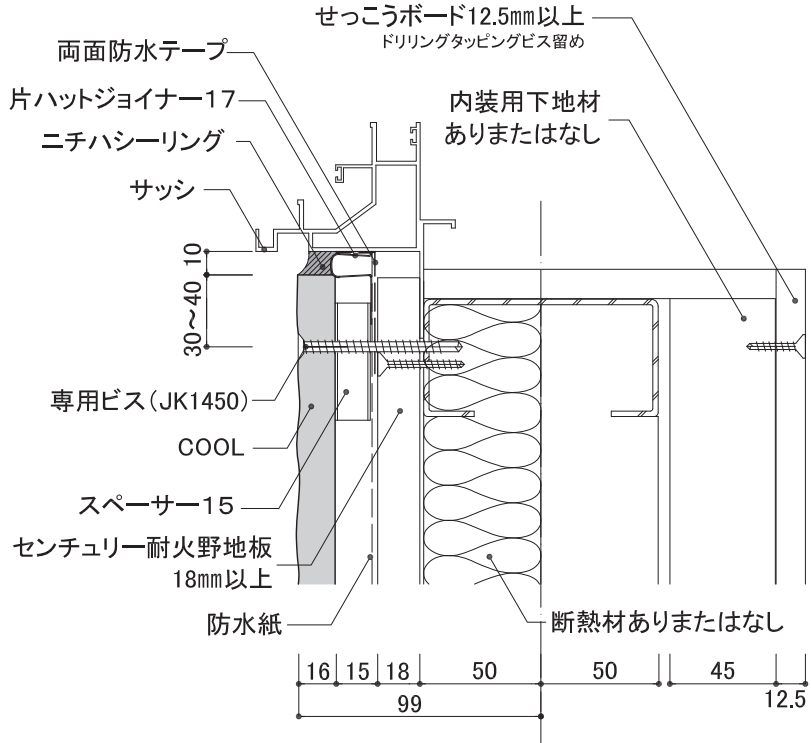
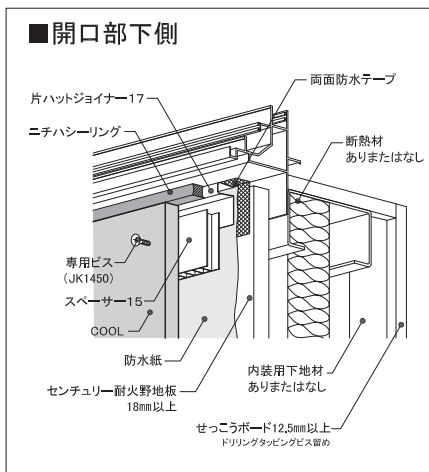
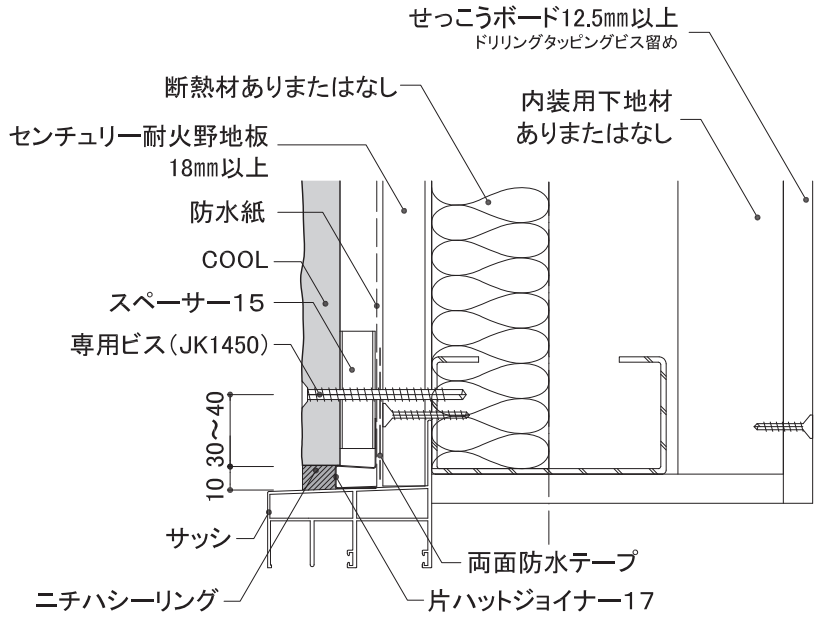
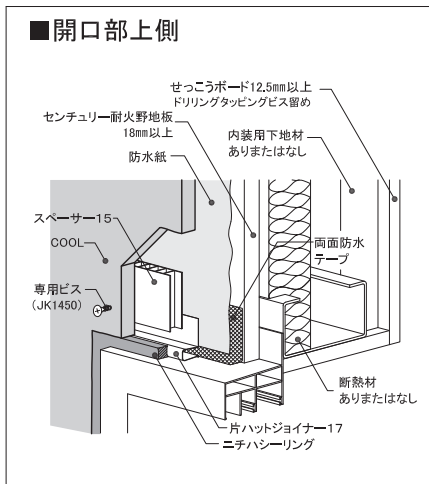




開口部周囲

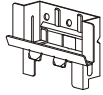
開口部上側

開口部下側



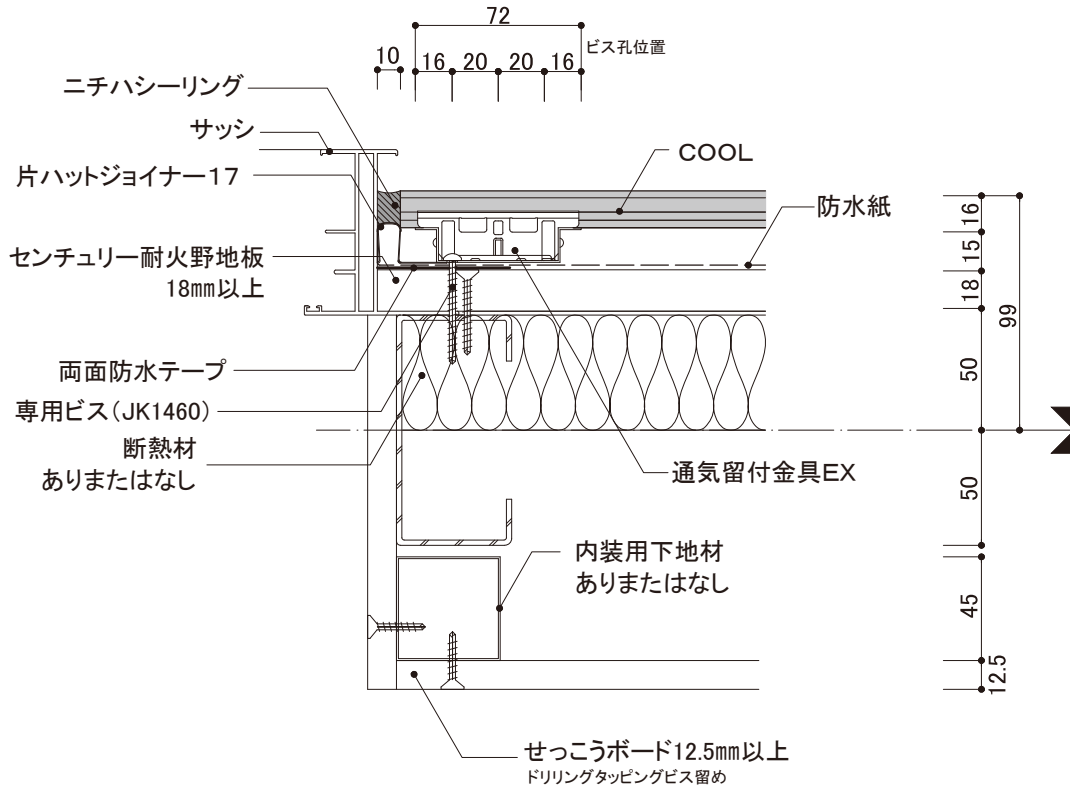
ビス頭

ミライア:ビス頭が隠れるよう補修シールを貼り付けます。詳細はP2施工留意点をご参照ください。  
メモリア、イルミオ:ビス頭の補修はニチハ補修用パテを埋めてから、専用補修液を必要最小限の範囲に塗布してください。  
ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません。)  
注:下地鉄骨胴縁はC-100×50×20、サッシは鉄骨造用外付けサッシを使用した場合の図面です。

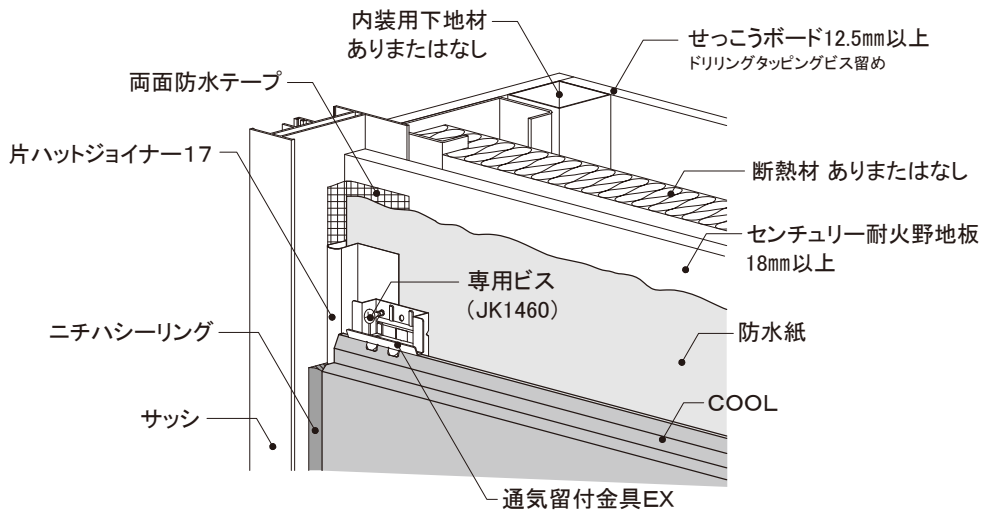


## 開口部周囲

## 開口部左右

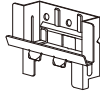


### ■ 開口部左右



ミライアおよび一部のメモリアのシーリングはサッシ近似5色とステンレス色の設定です。(表面イメージ色の設定はありません。)  
注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20、サッシは鉄骨造用外付けサッシを使用した場合の図面です。

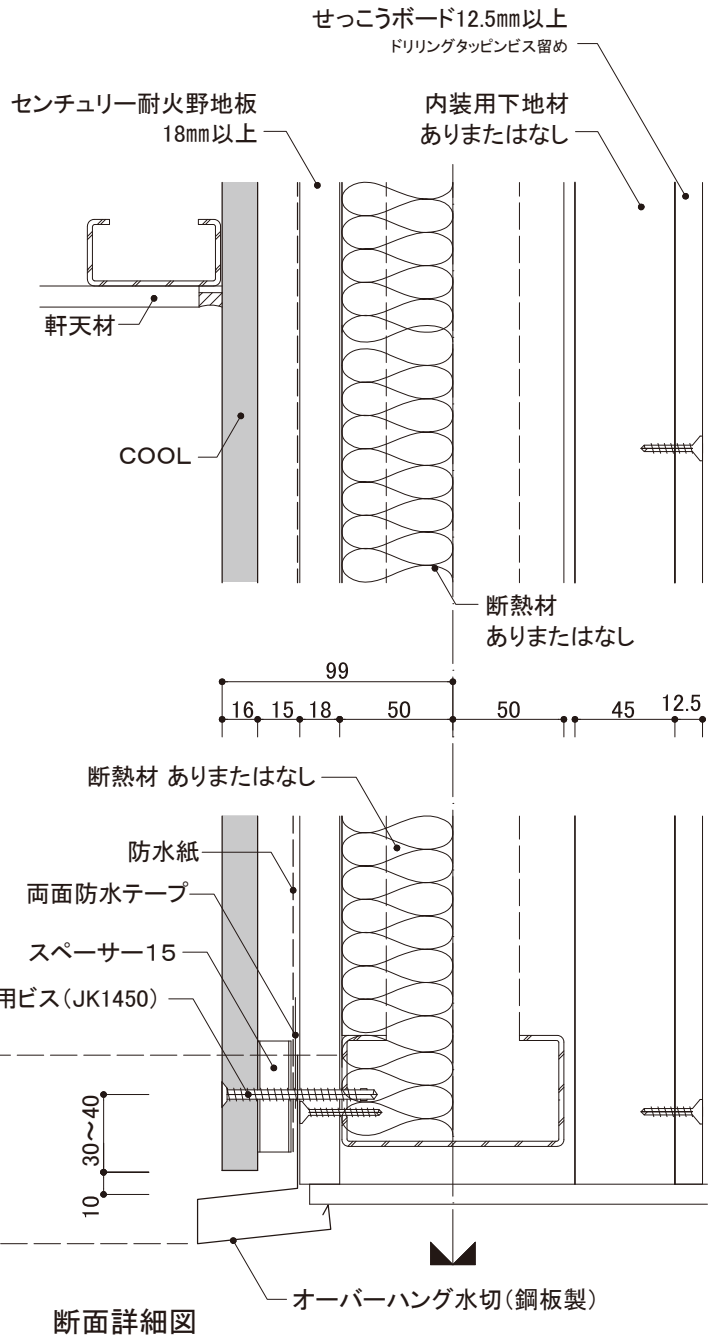
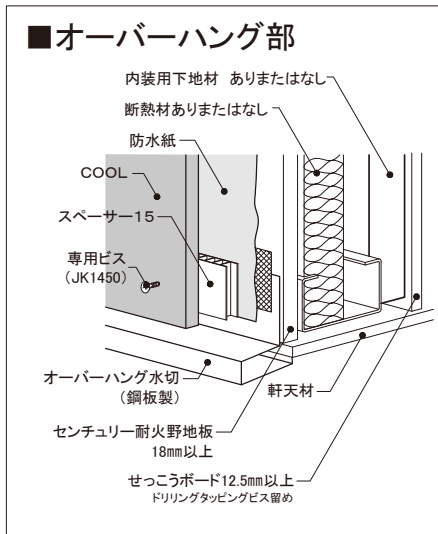
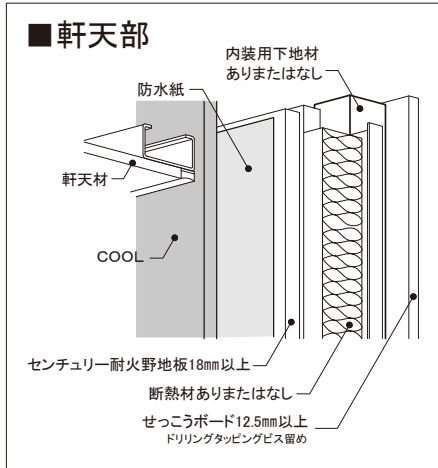




軒天部

オーバーハング部

オーバーハング水切(鋼板製)



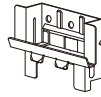
小口

COOL本体のシーリングをしない切断面は、モエンシーラーを十分塗布し乾燥後、見え掛り部分については小口専用補修塗料または専用補修液を塗布し、それ以外の部分はモエンシーラーを再度塗布してください。

注：下地鉄骨筋線はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

ビス頭

ミライア:ビス頭が隠れるよう補修シールを貼り付けます。詳細はP2施工留意点をご参照ください。メモリア、イルミオ:ビス頭の補修はニチハ補修用パテを埋めてから、専用補修液を必要最小限の範囲に塗布してください。



## 左右接合部(ウマ張り)

## 合いじゃくり

●ウマ張り施工は、一般部・左右接合部上側・左右接合部下側に、下記のようにそれぞれ指定の金具を使用し、留め付けてください。

- ・一般部 通気留付金具EX(JE825)
- ・左右接合部上側 通気留付金具EX左右接合部用(JEJ835)
- ・左右接合部下側 通気留付金具EXウマ張り用(JEUS830※)

※JEUS830にはウマ張り金具10個、JEJ835 10個、EPDMシール1シート(EPDMシールはJEJ835に使用)が同梱されています。

●COOL1枚に使用する金具の個数は、下地の間隔で異なります。

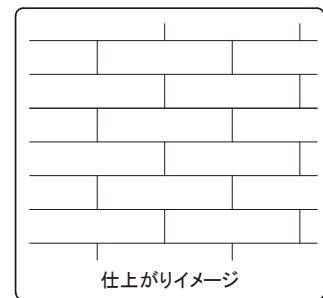
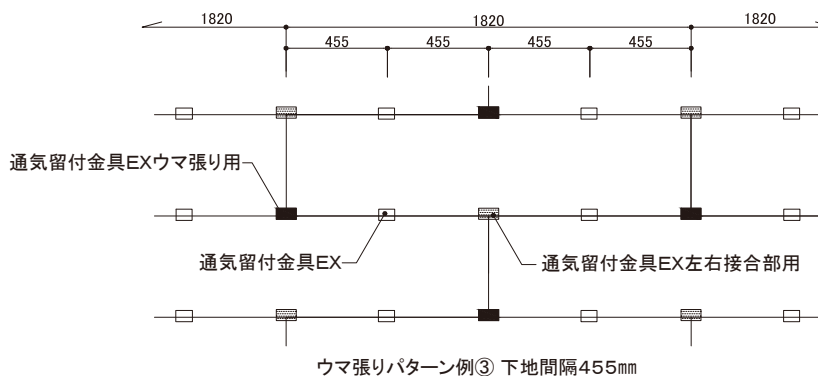
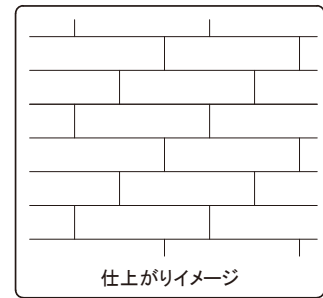
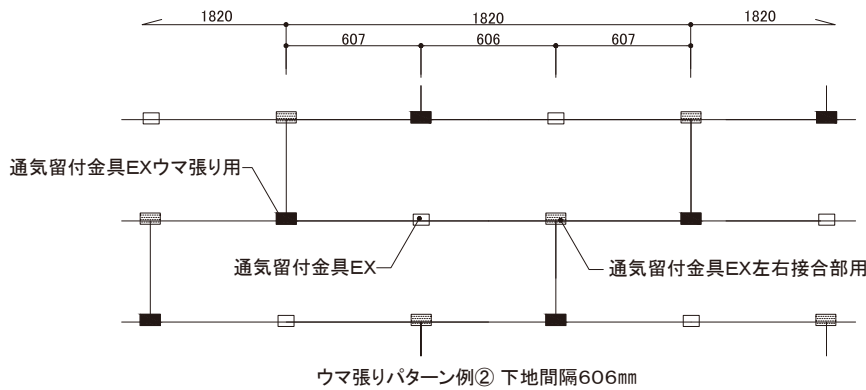
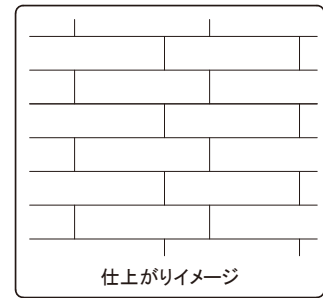
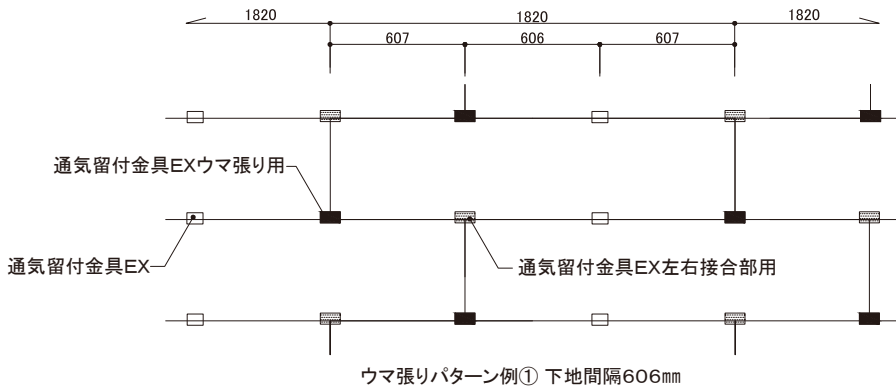
【下地間隔606mmの場合】

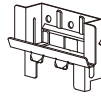
- ・通気留付金具EXは1個
- ・通気留付金具EX左右接合部用は1個
- ・通気留付金具EXウマ張り用は1個

【下地間隔455mmの場合】

- ・通気留付金具EXは2個
- ・通気留付金具EX左右接合部用は1個
- ・通気留付金具EXウマ張り用は1個

●ウマ張り施工は施工高さ13m以下となります。

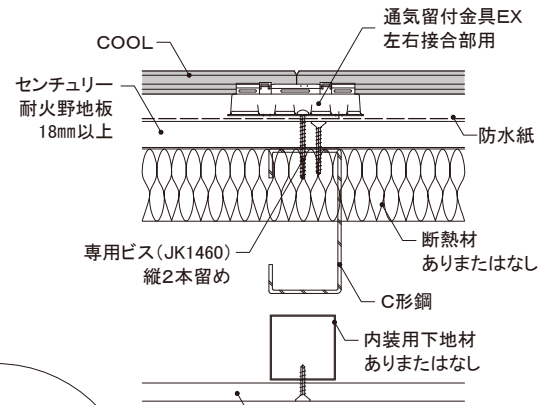
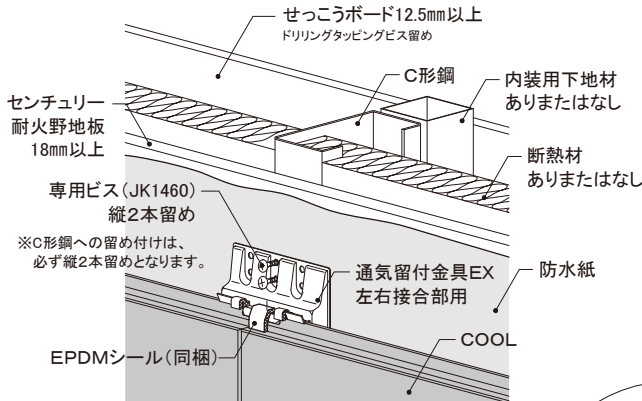




## 左右接合部(ウマ張り)

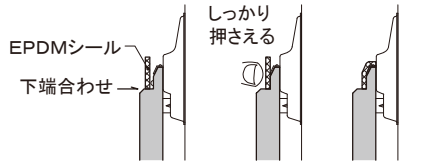
## ①上端部

- 左右接合部の上側には、必ず通気留付金具EX左右接合部用を使用し、合いじゃくり部に確実に納め専用ビス(JK1460 φ4. 2mm×45mm)2本で留め付けます。



### EPDMシール(同梱)の施工方法

- 通気留付金具EX左右接合部用を取り付け後、同梱のEPDMシールをCOOLの左右実にあたるよう下端合わせで貼り付けます。凹凸に追従するようにしっかりと押さえてください。

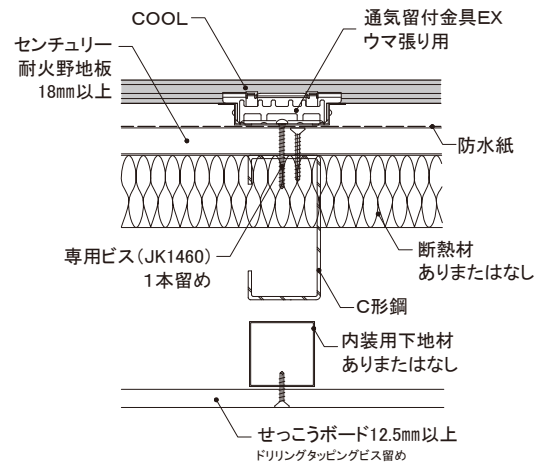
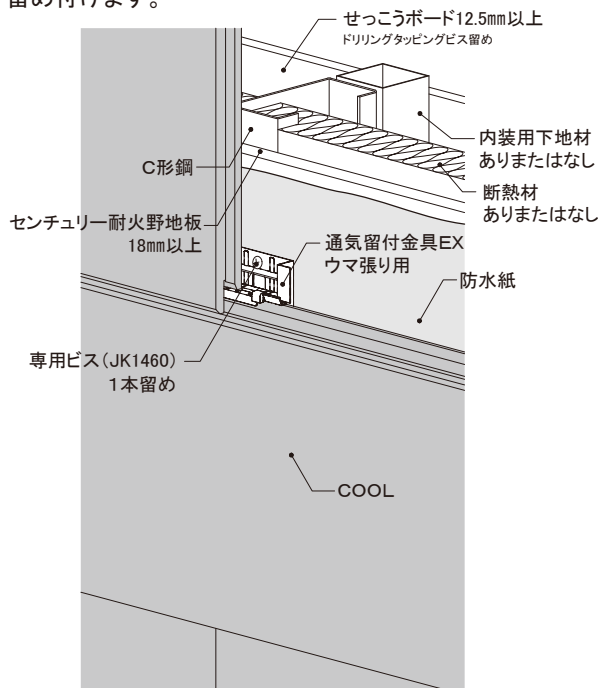


注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。

## 左右接合部(ウマ張り)

## ②下端部

- 左右接合部の下側には、必ず通気留付金具EXウマ張り用を使用し、専用ビス(JK1460 φ4. 2mm×45mm)1本で留め付けます。



注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。